明治三十五年四月二十五日發行（明治二十年十一月本會創立）

第三種郵便物認可（明治廿六年四月四日）　毎月一回十五日發行　内務省許可（明治廿一年二月廿八日）

婦人衛生雜誌

第百四拾九號

私立大日本婦人衛生會

婦人衞生雜誌

第百四十九號 目次

●本會五月例會報告

來五月三日(第一土曜日)午後第一時開會(時間嚴守)[illegible]發布致之間[illegible]御出席[illegible]御知友御誘引[illegible]を乞ふ●時[illegible]●當日[illegible]

家庭衛生談　醫學博士　三宅　秀君

演題未定　醫學士　[illegible]村　光[illegible]君

●會費增額廣告

本會[illegible]用[illegible]諸費[illegible]節減し來り候得共近來[illegible]加[illegible]本會[illegible]將來[illegible]を[illegible]本會々則第五[illegible]に基き[illegible]三月一日本會總會に提出して[illegible]致候へども尚御承知[illegible]有之度候也

●終身會費　金　貳拾五圓

●通常會費　一ヶ年分　金　拾[illegible]錢

●[illegible]一ヶ年分[illegible]金　三拾　錢以上

●四月一日以降實施

[illegible]本會[illegible]に有之候處[illegible]以來停止致し以後は[illegible]

●[illegible]會[illegible]納付[illegible]請取證[illegible]入用の御方は[illegible]

明治[illegible]年[illegible]月

[illegible]大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんを皆ともに希はざるはあらざれども其身健康にあらざれば此生活を得んといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいと〻緊要の事にして皆吾等婦人のもつはら學ぶべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相率て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人相ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集合を開き學識經驗ある人々を招請して衛生上諸般の講話演說談話を聽き互に相研究し尚之を筆記して冊子となし會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸姉に告げ其贊成を仰ぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則

（明治卅二年十二月改正）

●第一章　目的

第一條　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ以て社會全般の幸福を増進するにあり

●第二章　名稱位置

第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く

●第三章　會員

第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるへし入會者には會員章を交付す（交付手續細則に詳なり）入會後轉居等ありしときは速に事務所に報知せらるへし

第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金卅五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上　通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす

第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることを得へし

第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得

第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず

●第四章　役員

第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉戴皇族の妃殿下に願出るものとす

第十條　本會に左の役員を置く

會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名

第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選舉し書記は幹事の推選に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし

第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす

第十三條　會長の見込を以て役員外特に會員中より臨時指名委員を置くことあるべし

第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす　再選することを得若し任期中缺位を生ずるときは次點者を以て補缺す

第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す

●第五章　集會

第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし通常第一月曜日午後一時より開會するものとす總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし評議員會は時々開會し須要の事項を評議するものとす

第十七條　例會は學識經驗ある人々に衛生上の講話演說談話を囑托し會員をして臨席聽講せしむるものとす

第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講話演說等を陪聽せしむるを得但衣服は總て質素たるへきこと

第十九條　講話演說等は男子の傍聽を禁す但贊成員若くは會員に緣故ある男子は此限にあらず

第二十條　規則の改正を要し又は重要の事件あるときは總會に於て議定するものとし議定は總て多數決とし可否同數なるときは議長之を決するものとす

第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の増減等を報告すべし

●第六章　會計

第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす但些少の金額に限り費用支出の爲め事務所に引出置くことを得

第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす

第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

●第七章　支會

第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得支會は私立大日本婦人衛生會某支會と稱し其規則は本會の規則と抵觸せさる樣注意すべし

第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出へし爾後員數増減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すへし本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす

第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得

第廿八條　支會に加入したる本會々員に配付すべき本會の雜誌は支會に回送すへきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ

第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし

●第八章　雜則

第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し毎會に於ける衛生上の講義演說談話の筆記及內外の諸報本會の諸報告等を掲け之を會員に配付すへし　會の報告[illegible]

第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄附する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄附者の姓名及品目を雜誌に登錄し謝

●役員姓名

總裁　小松宮依仁親王妃周子殿下

會長　侯爵夫人　鍋島榮子

副會長　濱尾作子

幹事（いろは順）　鳩山春子
仝　羽田三緒子
仝　穗積歌子
仝　岡田德子
仝　高木かう子
仝　松平芳子
仝　三浦教子

評議員　石川さだ子
仝　濱田捨子
仝　仁禮壽賀子
仝　西升子
仝　男爵夫人　西部子
仝　德宗靜子
仝　緒方悦子
仝　男爵夫人　川口直子
仝　男爵夫人　加藤鈴子
仝　吉武輝枝子
仝　子爵夫人　田中伊代子
仝　高橋孝子
仝　丹波貞子
仝　男爵夫人　南部限子
仝　中濱芳子
仝　岡山とし子
仝　山本多穗子
仝　子爵夫人　松前藤子
仝　子爵夫人　松井正子
仝　馬渡玉子
仝　伯爵夫人　松平充子
仝　子爵夫人　秋元宗子
仝　三宅藤子
仝　宮本樂子
仝　宮下咲子

●支會　千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城

本會特別賛成員

（並に本會に於て講演せられし諸氏）

醫學博士　入澤達吉君
理學博士　飯島魁君
ドクトル　伊澤信平君
地方視學官　色川圀士君
醫學士　伊東祐彦君
ドクトル　飯盛挺造君
醫學博士　伊藤隼三君
理學博士　石川千代松君
赤十字社内科主幹　岩井禎造君
新潟　池原康造君
同　池田潔君
前文部大臣　濱尾新君
醫學博士　濱田玄達君
法學博士　鳩山和夫君
東京　萩原四郎君
醫學博士　芳賀榮二郎君
衛生局長　長谷川泰君
新潟　長谷川一詐君

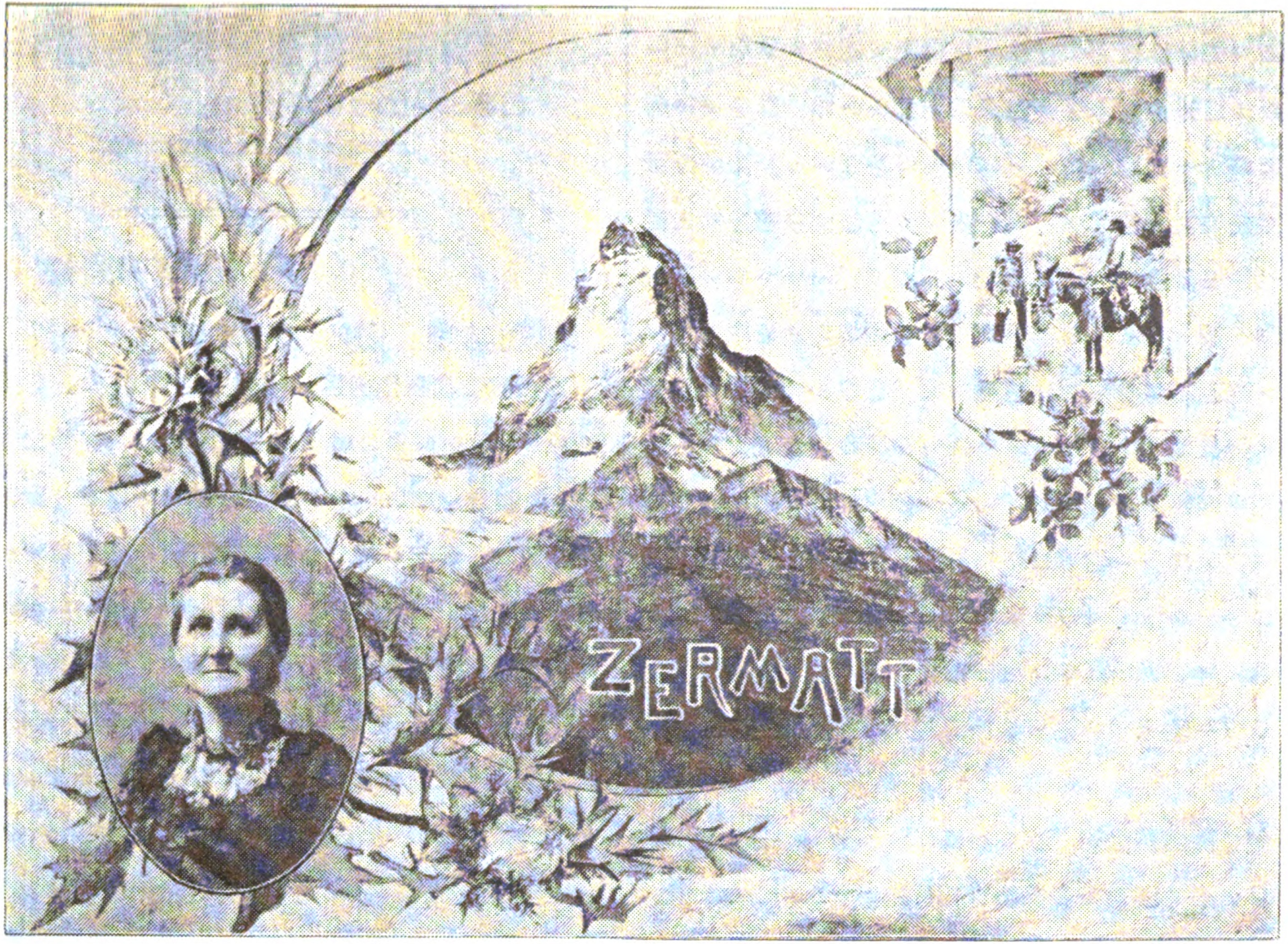
小兒科　小原頼之君
醫學士　林春雄君
醫學博士　緒方正規君
步兵少佐　堀內文次郎君
醫學博士　土肥慶三君
醫學博士　岡田和一郎君
醫學博士　大澤謙二君
醫學士　大西秀治君
醫學博士　大澤岳太郎君
一等藥劑官　恩田重信君
醫學士　若杉喜三郎君
男爵　加藤弘之君
ドクトル　加藤照麿君
醫學士　賀古鶴所君
醫學博士　河本重次郎君
醫學博士　樫村清德君
醫學博士　片山國嘉君
醫學士　川上雅鼠君
ドクトル　金杉英五郎君
醫學士　笠原光興君
醫學博士　高橋順太郎君
ドクトル　高山紀齊君
醫學博士　高木兼寬君
法學博士　高木豐三君
醫學士　田代義德君
新潟　田代亮助君
男爵　高崎正風君
醫學士　竹中成憲君
醫學士　高田耕安君
新潟病院長　高橋辰五郎君
藥學博士　丹波敬三君
醫學士　高橋貞頑君
藥學博士　田原良純君
醫學博士　坪井次郎君

三等軍醫正　星野保光君
一等軍醫　横井忠明君
大日本教育會長　辻新次君
理學博士　坪井正五郎君
中央衛生會長　長與專齋君
ドクトル　長與稱吉君
男爵　南部甕男君
理學博士藥學博士　長井長義君
新潟　長井千守君
醫學博士　中濱東一郎君
新潟　中村勇三郎君
醫學士　村松鐵雄君
醫學博士　隈川宗雄君
醫學博士　栗本東明君
醫學士　山田鐵三君
大審院判事　馬屋原彰君
警視廳第三部長醫學士　山根正次君
岡山　山川眷二君
醫學士　丸茂文良君
衛生試驗所技手　丸山長四郎君
松山病院　松山棟庵君
ドクトル　小柴信六郎君
盲啞學校長　小西信八君
廣島　小泉賀君
醫學士　古川榮君
東京　布施正頤君
臺灣民政局長　後藤新平君
帝國大學敎授　エ、ベルツ君
醫學士　甲野棐君
文部書記官　寺田勇吉君
子爵　秋元興朝君
前軍醫總監　足立寛君
ドクトル　新井古芳君
新潟　阿部玄四郎君

高崎醫會長　土谷全次君
產科婦人科　水原漸君
醫學博士　佐々木政吉君
醫學士　淺田決君
ドクトル　朝倉文三君
ドクトル　朝山義六君
醫學博士　佐藤三吉君
醫學士　櫻井郁二郎君
醫學士　佐藤恒久君
ドクトル　佐伯理一郎君
ドクトル　榊順次郎君
醫學士　神保三郎君
醫學士　櫻井悔次郎君
醫學士　北村精造君
ドクトル　北川乙二郎君
醫學士　木下正中君
醫學士　北島小太郎君
醫學博士　北里柴三郎君
醫學博士　三浦守治君
醫學博士　三浦謹之助君
小兒科専門　宮本仲君
理學博士　箕作佳吉君
醫學博士　三島通良君
醫學博士　三宅秀君
醫學士　三輪信太郎君
新潟　水野欽君
伯爵　土方久元君
醫學士　島村俊一君
醫學博士　弘田長君
ドクトル　須田卓樹君
ミス、ヒユース
醫學士　笹川三男三君
醫學士　波多野惇君
醫學博士　吳秀三君
八王子　和田茂貞君

本會雜誌を以て報告すべし第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（牛込局宛）振出しあるべし第卅四條　會員中若し本會の除害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし第卅五條　本規則は會長の意見又は會員二十名以上の賛成に依り總會の決議を經るに非されば之を更正することを得ず

東京市牛込區矢來町三番地
私立大日本婦人衛生會



トコース女史の肖像及同女史の登山せし瑞西ザアーマツト氷山

講演

家庭看護法（第一）

醫學博士　三宅秀君講演
佃速記事務所員速記

私は此ボールドに書いてございまする通り「家庭看護法」のことに就て、縷る〳〵と長く御話を致す積りでございますが併し今日は極く手短かに序開だけを致して置きます、と申しまするものは彼の博學にして高名なるヒユース孃が、幸ひに何か御講演になりまするさうでありますが、偶然にもさう云ふ好へ折に私が此處へ出まして、行先きの長い御話を初日より長たらしく御話して居りますると却て御迷惑ならんと存じます、尤も今日私が此處で御話を致しまするに就て偶然にも悦ばしい感じを以て居りますのは、皆さん御承知の通りの先月の末に日英同盟と云ふことが成立ちまして、日本國民も英吉利國民も大層御互に悦んで居りまする、餘程御目出度事柄であります、デ私が「家庭看護法」を一席申上げて、其後に英吉利國の國民たる所のヒユース孃の御演説がありますのは、恰も演説に就ての日英同盟と云ふものが成立つたのでありまするから、私は之を第二の悦びと存じて居ります、是まで日英同盟で演説を致しまするなど〻云ふことは、餘り本會に於ても無かつたやうに承知致して居ります、然るに今日は僥倖にしてさう云ふ御目出度ことがございますから、ホンの御祝儀に一言申上げて退きます積りでございます。

此演題を掲げて置きましたならば、家庭看護法はどう云ふものであると云ふ所の發端から御話を申さぬ

ければならぬのでありますけれども、私は此看護法を他の學校で是まで講じて居りましたので、唯ソレを本會で講じ續けることになりましたのでございまするから、家庭看護法と云ふものゝ成立から順序を追ふて御話を致して居りますると、全く序文が長くなりますから恰度私が今講じ掛つて居りまする食物の所、即ち病人に食べさせる食物の事柄を御話する積りでございます、尤も是まで致して居りました講義は、可なり綿密に講じて居りましたのでありますが、今日はホンの序開きでありますから、其綿密な御話を除きまして、病人に食物を與へる大切なことを一言致して置きまする積りでございます。

此頃は病人さへ見ると云ふと直ちに牛乳を飮んで宜いとか、ソツプを飮んで好いとか申しまするから、切めて牛乳だけのことでも此短かい間に御話を致して置きたいと存じます、ソツプなどの御話は段々後て御話をすることに致しまする。

食物と申しまするものは平素吾々の如き健かの身躰の者でも食物を喰べて身躰を養つて居るものでありますから、病人が命を繋いで往かふと云ふのには矢張り達者の人と同じやうに、食物を喰べて行かなければならぬことは申すまでも無いことであります、併し病人と達者の人とは身躰の具合が違つて居りますから、達者の人に食べさせる物を病人に喰べさせまするとソレが爲に却て病氣が悪くなるやうなことがございますので、どうしても病人に喰べさせる所の食べ物は、普通の健康の人が食べるのから見ると少し趣きが變つて居なければならぬのであります。」

是まで在來りの看病法を記しました書物などでは、多く病人に依て食物の食べさせ方、或は病人の食物の話をしたのが多いやうでありまするが、私のは家庭看護法でありますから、看護婦が専門の業にす

るやうなことゝ違ひまして、家族の中で病人が出ました場合に、達者な家族が病人を介抱する御話でありますから、食物などを調理致しますにも自分の家で自分で手に掛けて臺所で調のへなければならぬ、さうして素より喰べさせ方も知つて居らなければならぬ、之に色々の心得を要するのでありますから、食物の拵へ方或は食べさせ方何もかも引くるめて素人方の自宅に病人の起つて來た時の一助にと存じて、先づ食物の調理方法のことから申上げます、併し此方法のことから御話を致しまするど餘り唐突で數から棒のやうでございますが、是まで話續けて居りました其續きでございますから、其食させ方の發端から御話を致します積りでございます。

病氣の種類も澤山ございまするが、其中に食べ物の食べ過ぎなどから起つた病氣がございまするし、又は食物の不足から――滋養物の不足から病氣になつた人もございます、さう云ふ病人は藥一服飲まないでも、食物の食べさせ方に依つて癒すことが出來やうと思ひます、言葉を換へますれば食べ過ぎから起つたのであれば少し食物を減じ、それから食物の不足なのは滋養物で停滯しないやうな品物を食べさせますれば、藥一服飲まないで食物の加減を以て病氣が癒つて仕舞ひまする理屈でございます、其場合には恰度食物が藥の代を爲す位でございます、醫者要らずで、起りかゝつた病氣を食物の具合で止めて仕舞ふことが出來まして、此衞生會などで御話致しますと誠に宜い問題だらうと思つて居ります。

日本の統計年鑑と云ふものも今年で僅か二十卷しか出來て居りませぬが、此統計年鑑を繰つて見まする と、食物が惡いとか、或は食物の養生が惡いとか云ふ處より來る腸胃の病氣が多いのでございます、傳染病が多いとか肺病が多いとか、或は梅毒が多いと

か申しまして世人は驚いて居りますが、腸胃の病氣程多いものはないので、澤山の人が此病氣の爲にとられて居ります、さうして見ますると健康の時に衛生の側から云つて食べ物の養生を致します方法、此病氣に罹つた時に食物の操り具合を承知致しましたならば、死ぬべき人間が減つて生命をくひ止めることが出來るだらうと思ひます、デありますから家庭看護法と云ふ中て、食物の事柄は餘程大切なものであります。

それから此一軒の家に傳染病か何か出ますると、今日東京のやうな便利な所ては直ぐに看護婦を呼んて晝夜其病人の看護をさせますけれども、傳染病者に手を掛けて居る所の看護婦をば、成たけ臺所に來て貰はんやうに注意を要さなければならぬ、過つて傳染病毒が食物の中などに這入りますと、それから家中の者に傳染を致します、故に看護婦や看病人は成たけ臺所の食物を調理する所へ來て貰はんやうにしなければならぬ、ろれてありませぬと大枚の金を出して看病婦を雇つて却て家族に傳染させる恨がございますから、其家の主婦たる者が能く心得て居らなければならぬ、縦令主婦でございませぬでも、誰でも家族として心得て居らなければならぬと思ひまする。

それで滋養物を食べると身體の營養になつて病人が壯健になると云ふことは、世間の人が能く知つて參りました、僅か此四十年前――維新當時まてはなか〳〵今日のやうにソップとか牛乳などが容易く手に入りませぬで、假令それが手に這入りましても、結構な滋養物だと云つても乳とか、ソップなどを食べる人がございませぬ、其乳やソップのやうに容易く料理することの出來るものは格別、調理鹽梅と云ふことが難しいものてございまして、ソップてすらな

か〳〵容易いものでないのでございます、西洋料理の時に吸ふソップだと味ひだけで宜いやうでありますが、病人に食べさせて身体を養はせやうとするには普通のソップと造り方が違ふのでございます、ソップなどでも普通の料理法と病人に食べさせるソップとは違つて居ります、これ等も心得て居らなければならぬ、それから牛乳を飲せると申しても、通常貴下方が飲んで在つしやるのはどう云ふ具合にして飲んで居られるか知りませぬが、暖めて宜い場合もあり冷して宜い場合もあり、又混ぜ物をして飲ませる場合もありますので、色々乳の飲せ方も知らなければならぬ、唯醫者が此病人には牛乳を飲すが宜しいと云ふだけで、どう云ふ具合にして飲せよとか、臭いと云つたら斯うしろとか云ふことを、普通醫者が信切に教示して呉れませぬ、それで馴れもしない者に無闇に乳を飲せますると、醫者は餘程滋養になる積で乳を勸めたのでありますが、却て乳を飲むと吐し、或は乳を飲むと腹を下すことなどがある、さうすると一向乳が滋養物になりませぬから、さう云ふ場合には此乳を飲馴はせて身体の滋養物になるやうな具合にしなければならぬのでありまする、それ等が此家庭看護法の入用なる處であります、デ其處の邊まで親切に醫者が教へて、飲めなかつたら斯うして飲ませろ、斯う云ふ時には斯う〳〵、此場合には斯う云ふ法を用ひろと、手を換へ品をかへて飲方を親切に教えて呉れる醫者は誠に少くないのでございます、デありますから素人方が其位のことを心得て居りますと、大層世の中の爲になるだらうと思ひます。

デ維新前まではなぜ乳や何かを人が嫌ひましたかと云ふに、平日肉食を致し付けませぬ人が多かつたので、併し極くの昔はと云へば支那でも天竺でも日本

でも肉や乳などを食べて居つたのでありますが、中頃此風が廢れて仕舞つて、肉だの乳だのを食べないやうなことになり、それから病身の者が肉食をすると重苦しくて可かない、必ず病に障ると斯う心得て居りましたから、素人が自分でも輕い物〳〵と食べて、粥でありますとか、干瓢でありますとか、百合とか、菜豆であるとか云ふやうな物ばかりが病人の食物のやうになつて、醫者も亦其時勢に連れて居りますから、病人の好まない物は無理に勸めませぬで食べ馴れた物で、病人でありますれば粥に梅干位で、其外には味噌漬の香物と云ふ位の物で、病人の食物は極つて居つたのであります、其他大概毒絶てと稱へて何でも滋養物などは食べると中ると心得て食べさせずに居つたのでございます。

然るに西洋流の療治法が段々開けて參りまして、全然古い所の習慣を打破つて仕舞ひまして、今度は少し病人を養過ぎるやうな氣味になつて來ましたので、どんな病人でも直ぐ乳を御上りなさいソップを上りなさいと云ふやうになりましたが、是も能く〳〵道理から考へて、道理を辨へて用ひませぬと宜しくない必ず病人には滋養の物を食べさせなければならぬと云ふものでない、却てそれが昔の人が言ふた通り身躰に障ることがあるのでございます、又昔のやうに毒絶ちばかりして居つて輕い物〳〵と云つて淡泊な物計り食してそれが爲に命が續かないで瘠せ衰ろへて死んで仕舞ふと云ふことも澤山あるのでございますし、又今日は其反對で、頻りに食過して以て身躰を惡くする樣うなこともあるのでありますから能く〳〵其邊を察し、どう云ふ物を食べて宜いか、醫者の方でも指圖して吳れますが、偖てそれを食べさせる段になりまして其方法を家族の中に心得た人がありませぬと大間違を致します。

病人の食物は健かな人の食物と違ひまして餘程その料理が難かしい、なぜ難かしいかと云ふに、達者の人でございますれば三度の御飯を待兼ねて食べる位て、自然身体を動して居りますから皆さんは何を召上つてもおいしい、けれども病人はそれと違ひまして、大抵食氣の乏しいもの故假令味の良い物を持つて行つても口が苦いとか口が不味いとか、食物を持つて行けば直ぐ顰面をする位になつて居りますから、それを氣に入るやうに食べさせなければならぬのである故に、病人の食物は餘程難かしいのでございます、少しばかりの臭が致しましても、平日は食べ物がおいしいからホンの僅かの臭ひ位がしても構はずに食べて仕舞ひますが、病人になりますると鼻が鋭くなつて、聊かの臭がしても直ぐに強く感ずる、之を無理に食べますのですから胸が悪くなる、それて御膳に付けて出しまするにも、平素の身体てございますると澤山に御皿に盛り付けましても喜んて食して仕舞ひますけれども病人になりますとさうはいかぬ、御飯を食べるのが厭やになつて居るのだから山のやうに盛つたのを見ると見たばかりで厭ひて仕舞ひます、それ故に食物を食べさせるに就きましても小さい小皿のやうな物に少し取り分まして、今少し食べたい殘惜いと云ふ加減に爲し病人が更に需めたならモウ少し上げませうと云ふ具合に病人に勧めるやうにする中さば欺瞞して食わせる、さう云ふ些細の事柄まで必要でありますが、病人に食事を勧めるには達者の人に御飯を食べさせるのと違ひ餘程注意を要します。

それから又可笑しいことがある、少し氣の觸れて居りまする人であると、是は其食物を持つて行きますると疑つて其食物の中に毒でも這入つて居るかと思つて一切食べない病人があります、併し飢じいこと

は同じやうに飢じいのでありますから御膳立をして持つて來ると厭やとか何とか云つて食べない、箸を着けませぬ、さうかと思ふと御膳を据へ置いた儘にして、影を匿すと何時の間にか食べて仕舞つて居ると云ふ、實に狂人は餘程不思議な者でありますから、手品のやうなことをしなければならぬ場合が看護人としてあるのでございます、斯う云ふ具合に手を換へ品を更へて病人に美味を感ぜしめ食氣の付くやうにする其方法を色々と書集めたものを段々と御話して徃かふと思ふのでございまする。

先づ最初に今申した順序で乳の御話から致して參りませう、乳の飲せ方は毎に見ることでありますが、大凡乳と云ふものは人間の身体を養ひ得るだけの物質が悉く備つて居ります、大變に營養になることは常に話にも御聞きでございませう、又皆さんは實驗して御出でありませう、子供の中は乳ばかりを飲せて育てるのでありますが、達者な大人が子供のやうに乳ばかりで身体を養つて行けるかと云ふに、どんな滋養物でありましても、乳ばかりで健康な大人の身体を養つて行くことが出來ませぬ、併し病症に依りましてさう云ふ子供と同じやうに乳ばかりで養つて、他の食べ物を止めて養つて行く場合が折々あります、どう云ふ場合に乳のみを飲ましむるものであるかと云ふことは、醫者の方の領分でありますから、其醫者の見込みで乳ばかり御上げなさいと云ふたら其命令を守らなければならぬのであります、又病人も健康の人と同じやうに乳ばかりで養つて行く譯には參りませぬから、乳も食べるが宜しいが、其他に常の如く食物を喰べて行かなければならぬ場合がありますから、其時には合せて乳と他の物を食べさせて行かなければなりませぬので、乳ばかり何升も飲むと云ふことは餘程困難で且つ六ケ敷いこと

てあります、日本人は三合や五合までは隨分乳を飲得ましても、一升の二升と云ふやうに乳ばかり食べて他の物を食べずに行くことは難かしい、西洋人すら乳ばかりでは困難のやうであります、日本では餘りさう云ふやうな療治をする人はございますまい、而も其乳ばかり一月も一月半も永く飽きずに飲ませると云ふことは、どんなに上手に飲せても病人には飲せきれないのであります、そこで乳ばかり飲せると云ふことは難かしうございますから、之を避ける爲に他の物を混ぜて食べさせることもございます。

平素吾々が飲んで居りまする乳は、僅に五勺か一合てありますから、市中に賣つて居ります所の乳なれは何處の乳を飲んでも宜いやうなものでありますけれども、若し三合五合一升の乳を飲むやうな場合に、例之ば一合の乳の中に惡い黴菌が少しでも這入つて居りますれば、澤山の乳の中には從つて仰山に惡い性質のものが這入つて居る譯でありますから、澤山の乳を飲せる時分には確かな出所の乳を飲むやうに注意しなければならぬのであります、吾々が平素健康の時に飲んで居ります乳でさへも、煮て食べなければ危險な位であるから、必ず牛乳屋の方で消毒した乳を飲なければいかぬ、況して病躰で弱つて居る者に三合も五合も飲せるには、其中に少しばかりの黴菌でも這入つて居ては餘程危險であります、身躰の方が弱つて居りますから、一時に澤山の乳を飲せる時には注意を要するのであります、乳を消毒して賣捌きまする方のことは、近頃東京の市中などでも大概消毒して居るやうでありますが、內實は本統に消毒してあるか無いかは分り兼ねますが、兎に角牛乳屋でも消毒して乳を賣ることになつて居ります、聞く所に據れば神戶邊では大變好い牛乳消毒所が出來たさうでございますが、果して信ずべき確かの牛

乳の消毒所であるかどうかは、近日私共が探偵を遂げて見る積りでございます、東京の市中には餘り滅菌した乳を賣出す場所が多過ぎますから、却て名ばかり消毒すると云つて居るのではないか、少しく疑はしいのですから、私にはまだ保證が出來ぬ、其處まで信用することが出來ませぬ、若しそれを信用しないと致しますれば矢張り自宅で消毒して飮まなければならぬ、私は隨分我武者流の方でありますから、健康の身體であれば少し位の黴菌が這入つて居つても大丈夫だなどゝ衞生會では聊か申上げ兼ねる位のことをやつて居りますが、人間は其位の丈夫の身體でなければならぬ、少し位の黴菌が這入つて居つても平氣で飮んで居る位で、餘り人々が衞生會で仰山らしく嚇し過ぎるかと思ひます、けれども病人はさうは參りませぬから、病人に食べさせるものは鷄卵でも牛乳でも、餘程注意して能く其黴菌などのないやうにして貰ひたい。

それから牛乳の飮せ方と云ひましても極く熱くして飮せる時もあり、或は程よく暖めてやることもあり、冷めたい牛乳を飮せることも或は氷で冷して飮せることもある、都合四通りあります、全體牛乳は暖めて飮む方が宜しいのでありますけれども、暖めますると臭ひが致しますから、嫌ひの人は氷で冷して飮むこともある、どうも嫌ひの人は乳臭い臭ひがすると飮めないと申します、それで暖かいと臭氣が立つ、冷めたいのは臭氣が立たぬのでありますから、大概嫌ひの人でも飮めます、又牛乳を飮むと腹が下るなどゝ云ふ人がありまするが、さう云ふ場合には唯の水でも冷たい物を食べても腹が下るのでありまするから、牛乳でも冷めたいのを飮めば下利を起すのです、さう云ふ譯ですから其時に冷たい牛乳を飮むのは宜くない、そこで牛乳を食べますのに何か牛乳

に割入れて飲むと宜しうございます、蕎麥湯を混じると宜しいと申す人があります、其他牛乳を飲むと停滯して往かぬと云ふ人には、牛乳を薄くして飲せまするので、是は唯の白湯を割つて飲せても宜しいのでございます、丈夫な子供の腹が下るやうな時には、大麥を煎じて大麥を能く洵ぎて白く致しまして用ひます、此節は西洋食品店で賣つて居りますボルヽバーレーと云ふ奇麗に精らげた大麥がございますから、これを水で煎じて用ゐますれば、普通の湯より少し粘りますからこれを牛乳の中へ入れて飲みますれば、大概の腹下りは癒つて仕舞ひます、それから子供には牛乳の中へ砂糖を入れて食べさせまするが、アレは全く味を良くするばかりではありませぬ、夫の入つた方が飲みいゝと云ふ人には砂糖とか飴などを割つて飲ませるが宜しい、又甘いのは口になずんで往けないと云ふ人には鹽を混ぜて飲ませても宜しいのでございます、それからソップを牛乳に混ぜて飲せる場合もあります、或は少し御酒の飲める人でありますればブランデーを少々ばかり割りに入れて飲せても宜しうございます、又暖かいのを飲む場合に、臭ひがあつて往けないと云ふ時にはコーヒーとか紅茶とかを混ぜますれば、香ばしい匂で牛乳の臭ひを消して食べよく致します、尤も此牛乳の臭ひを嫌ふ人は澤山世間にございます、殊に婦人などは此牛乳の臭ひが誠に厭やだと云つて嫌ふ人があります、又牛乳の臭ひを去つて販賣して居る店も東京にはございます、どうして其臭ひを去るかと申しますると、布のスイノーの中へ温かい牛乳を入れて上からポタ〳〵雨のやうに落ちて、牛乳が漉されて來る所を此方で團扇で煽つて居ります、さうしまする と牛乳の臭が自然に去つて仕舞ひますから、さうすれば飲み好くなります、まだ自分では試めしませぬが

斯くして臭味を去る所は現に見て知つて居ります、斯う云ふ具合にやつて見やうと思ひます方は、これを試みても宜しうございませう、けれども唯吾々の自宅で試みると云ふと面倒のことには乳を漉したり煽いだりする間に空氣中の黴菌でも這入りますと、臭味を取る爲に黴菌入りの牛乳にするのは詰らないことであります、此家庭看護法の中で其事を申しても實際行なはれないだらうと思ひます、それから東京の市街で賣つて居ります牛乳は、大概全乳と云ふて乳を賣つて居ります、又中には脂抜き(脫脂乳)を澤山賣つて居る、是は通例の乳から脂肪を抜いたのであります、是が段々開けて參りますると、醫者も巧者になつてさうして全乳と脫脂乳と使ひ分けるやうになりませうが、豫め皆さんが全乳と脫脂乳と二通りあることを御承知になつて置いても宜からうと思ひますて、此澤山の脂肪のある乳は宜しくないと醫者が申しますれば、脫脂乳を御上りになり、それから醫者が通常の乳では脂が少けないと申した場合には、一方で脫去つた所の脂を普通の乳の中に混ぜて全乳より今少し脂肪の餘計なのを御注文になることとも出來やうと思ひます、併し其代り價が高うございます、又今日でも乳の中の脂肪分を勝手に増減して販賣する乳屋も東京にはありまするから、若し脂肪を澤山に病人に食べさせなければならぬやうな場合には、さう云ふ注文の出來る自由な世の中になつて居りますから、そこは醫者の命令次第、詰り醫者の領分でございます、それから又乳から製しましたもので彼のバタ、チース、是は日常用ゐますが、チースは一種の臭ひがありますから食べ得ない人がございます、チースは滋養物でありますが勸め惡い場合がありますから、多く醫者も勸めますまいが、チースは大變滋養の効のあるものであります、子供に

も大人にも同じことです、又バタには幾通りもございまして、其バタの中には惡いバタがある、此惡いバタは前に申上げました通り、達者な人が食べても善くないから殊に病人に向つては惡いバタは一切食べさせないやうに注意しなければ往けません、時々西洋料理を食べて胸に停滯して、何時までも消化しない場合があります、これは彼の惡くなり掛つたやうなバタを使つた西洋料理でございまして、其爲に胸に停滯するのであるから、腸胃の弱つて居るやうな人は最も氣を着けなければならぬ。

それからモウ一つ乳の中で附加へて置きますのは、乳酒と云ふものが東京でも出來るやうになりました、今日は乳屋の廣告をするやうでございますが決してさう云ふ譯ではございませぬ、乳の用法に就ての話ですから申しますが、乳酒と云ふは牛乳で拵えた薄い酒でありまして、少し酸味を帶びて居る、酒と申しても酩酊するやうな濃い酒ではないのであります、僅かばかりアルコールの氣がある位でありまして咽喉の渇いたとき熱のある場合には大層悦んで病人が飮みます、是は東京でも容易く出來るやうになりましたが、まだ他の地方などでは或は出來ないかも知れませぬ、此乳酒を拵える法は、誠に簡便で容易く出來る酵母が此節は外國から參つて居りますから、それさへあれば直ぐに乳酒を造つて飮用することが出來ますのでございます。

まだ其他に二三種牛乳から拵えて病人に食べさせ身躰の營養になる物がありまするけれども、日本では態々造らねばならぬ物で、西洋では工夫を凝らして色々な物を拵えて永い間病人に乳を厭かせないやうに種々と飮せ方を工夫し病人の身躰を肥らせるやうになし又は乳を用ゐて痩せさするやうな方法を講じます、又其の方法も整つて居りますが、まだ日本に

は乳の種類が僅か二通りばかりて、其乳を使ひ別けるやうな法もございませぬから申上げる必要はございませぬ、故に先づ大略して仕舞ひます。

それから乳を暫く置きますると、黄色の甘い味の物が乳の上に浮んで參ります、それはクリームと云ふ物でございまして、皆さんが御承知のアイスクリームの其クリームであります、全躰日本で拵えて路傍抔て賣りますアイスクリームは、アイスを以て乳に混ぜて直ぐアイスムクリームと云ひますが、本統のアイスクリームは先きに申しました牛乳の上に浮んて居る黄色の所のクリームて以て拵えたものでありまして、乳の中から別に取つたクリームと云ふ者を、氷で冷してアイスクリームにするのでございまして、これは最早壽命のない臨終に近い重病人でありますとか、さう云ふ者の身躰の養ひを付けるのであります、併しこれをやれば再び回復すると云ふ譯には參りますまいが、先づ死ぬまでは充分看病して少しも滋養物が身躰に這入つて、一日でも壽を延ばしてやりたいと云ふのが人情であります、縱令其アイスクリームを少しばかりし飲やつた所が壽命を取止めることは難かしいことでありますが、何も咽に通らなくなつた病人でも此品は食し得るものであるから乳の御話序に附加へて置きます、肉のことも今日御話しても宜しうございますが、ヒユース孃が見えられたやうでございますから、今日は是て止めまして此次は肉の御話を致します。(了)

登山に就て

ミス、ヒユース君　演説

安井哲子君　通譯

佃速記事務所員　記述

私は今日此登山のことに就て御話を致さうと思ひ

ます、登山と云ふことは特別に近世の婦人に就きまして、體育的價値があると云ふことを申したいのでございます、それは唯一般に近世の婦人に對してのみでなく殊に近世の淑女貴婦人に對して最も價値があることを申上げたいのでございます、それで私が伺つて居りますのに、日本では宗教的の意味で登山をなさる方が多いさうですが又同じ意味で婦人の登山を禁ぜられて居りまして、近世に至るまで婦人が或山に登ることを許されなかつたと云ふやうなことに承つて居ります、一體日本の國は實に山に充ちて居りまして、其人民は大層天然の美を愛する所の性質を持つて居られることは豫て承つて居りました、私は斯う云ふやうな問題に就て度々御話を致しましたが、斯う云ふ好い境遇即る山が澤山あり、美しい景色に富んで居ると云ふ樣な登山には最も適當な境遇に居る方々に御話を致したことはございませぬ、實に此日本は美術に於ても亦文學に於ても世界の一とも謂はるべき彼富士山に就て、多くの思想が現はされて居りまするやうに思ひます。

私は度々自分の預つて居りました所の生徒を連れてスイツランドの山に登つた事が御座ります、そして曾て私が此スイツランドの山に連れて參りました生徒の、其中で最望のあつたのは或日本の婦人でございました、其人は實に能く山に登りました、かう云ふやうに山に登ることは非常に好いことであつて、日本の如く山を以て取圍まれて居りまする國に御住ゐなされて居られる方は、非常に幸福であらうと私は考へて居ります。

そこで此山に登りまするといふ事に付ては効能が六ツございます、其第一は即ち登山は「骨の折れる運動」であると云ふ事でございます、併し多くの人は過勞の運動は宜くないと云ひます、私は宜くないと

思ふのみならず善い條件の下に行ひませぬと其處に一ッの危險があるだらうと考へます、併し若し善い條件の下に登山をやりましたならば、危險は更にございませぬ、即ち其善い條件と申しますのは第一は山に登るに適當した着物、第二は初めの間は容易い山に登つて練習すること、第三は即ち能く其山に就て經驗のある案內者、此三ッが備つて居りましたならば、隨分六ヶ敷嶮岨の山に登りましても銀坐の市街を御歩きになりますと同じやうに容易くあります、御婦人に對する興味は實に澤山ありませうが、上流の御婦人方には山に登ることは大變善いことであらうと信じます、何れの國でも婦人は男子に比較して見ますると、骨を折つて仕事をするやうなことは大變に乏しく、さう云ふ機會を得ることは誠に少ないので、殊に上流の御婦人方は郊外に於て運動することなども極く稀れてあらうと思ひます、生理學者が申しまするには、一ッの仕事に精神を集めて一生懸命に仕事をすると云ふ事と又其反對に腦を休めると云ふ事との二ッは極く必要なことであると申して居ります、それ故に山に登ることは實に適當な仕事であつて、即ち一方に自分が勞働することに全力を集めて、さうして一方には腦を休めますから誠によいと考へます、若しも人間の身躰や腦が非常に能く訓練されて居つて、何事をなすにも非常に善い狀態になつて居りませぬと、本統に立派な人間の價値は出來ませぬ、即ち精神が快活に元氣が充ち滿ちて居る樣に致しますには骨を折つて十分運動することが一番必要であります、私共の今日の生活をして居ります有樣と云ふものは色々の六ヶ敷いことが澤山あつて、種々の複雜して居る世の中に住んで居りますから、一方からは實にコセ〳〵氣を使ふことが多く、殊に婦人は氣が小さいから男子より氣を揉

む事實が澤山にあります、それを癒しますに何が一番良いかと申しますれば、此躰育即ち、身躰的の運動が一番良藥でございます、斯う云ふことは婦人中殊に上流の御婦人には多いやうに思ひますから、身躰に十分の運動を取ることは上流の婦人方には一番良いだらうと思ひます。

第二の効能は、「廣々とした郊外の空氣中に居る」と云ふことでございます、それで最も多數の御婦人方は、其主なる職業である處の一家を治める爲に多くは家の中に御いてになるので御座りませう、如何に空氣の流通が能い室と致しましても、郊外に在つて空氣を吸ふやうなのとは一樣でございませぬ、生理學者も心理學者も今日までの間に男子と婦人とを比較しまして、道德、智力、躰力上どう云ふ風に違ふかと研究しましたけれども、望むやうな結果を得ませぬでございます、又歷史的に考へましても、婦人は一躰神經質のものであり又感情的のものであります、男子と比較すれば直ぐに感情に侵され易い性質の者でございます、これがどうしたならば癒るかと云ふと、廣々した郊外の空氣中で遊ぶのと太陽に曝されるのとの二ツであります、それからして又近世の如き複雜の世の中に生活をして居りますと、段々神經が過敏になつて來るのであります、それ故益郊外に出て新鮮の空氣を呼吸し、太陽に曝されて休みを取ることが必要だらうと思ひます。

第三の効能は、今申上げましたやうに郊外で新鮮の空氣を吸ふばかりでなしに、「山の上にある最良の空氣を呼吸する」と云ふことで、即ち山の上の空氣は極く清潔でありまして、其上に壓力が少なくなつて居ります故に、其空氣中にあつては何共言へない實に心持の良い感じを致します、又山の上にあります所の空氣は、其上にあります空氣と比較して見ます

ると一種の含有物がありまして、これは人の身体や心に活き〳〵した感じを與へるものでございます、若し貴女方が山の上に御登りになつてかゝる新鮮な空氣中に御休みになつて居りますと、今までの山に登つて來た時の疲勞と云ふものは忘れて、却て愉快を感ずるものであります、又今まで社會に居つて色〳〵の生活の困難を感じて居ることも忘れて仕舞ひ、つまり自分の身体も精神も亦今までの幾多の困難も皆忘れて仕舞ひます位でございます、又此感情は其時にのみ止まらずして將來にも矢張りこれだけの結果を殘すものでございます、例へば詰らん嘆きや色々の卑劣の心の起つて來た場合に、曾て登山をした時のことを考へ登る時の困難や又之に伴つた非常な愉快のことなどを比較して考へますると、此世の中の小さい事や卑劣の考などはすぐに消えてしまひます、これ等は登山を致しませんければ決してかう云ふ結果を得ることは出來ぬてあらうと思ひます。

第四は「登山は勇氣を養成するに必要である」と云ふ事でございます、一躰人の勇氣を身躰的と道德的に分ける說には私は不賛成でございまして、身躰的勇氣は即ち道德的勇氣があります、本統に大度なる勇氣ある人はどうでありますかと云へば何も恐れない人ではなく、能く恐るべき物を見て恐れ、恐るべからざる物を見て恐れない人でございます、それで婦人は今のやうな文明の世の中にあつては戰爭などは致しませぬ、又其他の事柄に於ても男子のやうな危險な場所に其身を置くと云ふことは少なうございます、其反對に男子は航海でございますとか、或は又鑛山に居つて金掘を致しまするとか、其他色々の機械を運轉さする爲には隨分危險の所に身を置くと云ふことは婦人と比較しますると非常に多いのでございます、それ故に婦人は男子の如く勇氣を示すや

うな機會も少うございます、併ながら女子は道德的の非常な勇氣を有つて居ります、なぜならば女子は誠に經濟的に人に依賴するやうに出來て居る者で、一躰人に依賴するやうな位地に居る者は道德的に堅固なものて御座います。

それて此世の中が進步致しまするに從ひ女子に對するタツク一つの理想が色々に增して參りまして、女子が本統に幸福てあり此世の中に有益てあると云ふのは何てあるてあらうかと云ふ事が少しばかり分つて參りまするに從つて、どうしても勇氣が必要になつてまゐります、今若し勇氣のない子供を預つて、其子供に勇氣を與へやうと致しますには道德的勇氣を與へるに先立つて、先づ身躰的勇氣を與へることが必要てあらうと信じます、即ち其子供をして先づ困難なる身躰的の運動に馴れさせる事が大切でありますゝかう云ふ意味に於て此登山と云ふことは困難てはありますが極く適切と思ひます、固より此登山は容易なことではありませぬて、誠に六ケ敷いものでありまず、其初めに麓の方から登つて往く時には左程勇氣も入りますまいが、岩の上を步いて行く時などには最も勇氣が要ります、私は先づ自分の經驗に依りますと、かう云ふやうな場合には、其人々が確かに自分て自分を處置して往くことが出來ると信用した場合でなければ、輕々しくは登山は致させませぬ、登山は此の如く大層其人に勇氣を與へますから、其人が登山をしない前に自分には到底出來ないと思つて居た事を、登山した後にはそれ以上の事も出來るやうに感じます、それは此登山のみに限らず、其他の總ての仕事に向つて自分の力以上の六ケ敷い事をやり通さうと云ふ勇氣は自然にこれから養はれるものてございます、私は一躰差出る女も男も非常に嫌ひてございます、どう云ふ譯かと云ふに、差出

る人は大抵能力の少ない物の譯が分らない人でありますからでございます、若しも自分が知つて居る事と知らぬ事とを能く知り分けて居れば謙遜でなければならぬものである、兎角差出者は自分の爲し得ることも爲し得ないことも分らずに居る者で之を直すのには困難でありまする、登山に就ては獨り勇氣を養ふのみならず、又忍耐力をも養ひます、素より朝早く起きて、さうして歩いて行くだけには忍耐は要らないやうでございますが、十八時間も山に登る爲めに躰力を費し、時々愉快がありますので幾らか疲を癒しませうが、併し中々困しくなつて途中で止めて戻らうと思つてもさういふ譯には行かず勇氣を起して終に頂上まで達するのには大に忍耐の要ることてございます、それ故に登山は大に勇氣を養ひ又忍耐を養成することが出來ると考へます。

第五の効能は「非常なる快樂、或は幸福を與ふる」と云ふことでございます、吾々共は幸福であるやうに自然に造られて居ります、それ故どんな事でも幾分か幸福を與ふるやうなことでありましたならば、其事柄を吾々は非常に悦んで取るべきことである、それて此山の上に登ります時には今申上げましたやうな忍耐とか、勇氣とか云ふやうなことに依て吾々が愉快を取るのみならず、此清潔の空氣に浴し天然の美の景色を觀てさうして非常に愉快が取れるのである、且又雪の積り積つた上に輝く日光であるとか、實に恐ろしい氷の山であるとか、或は雪頽れが落ちて來る有樣とか、或はギザ〳〵した山であるとか、云ふ樣な非常なる莊嚴の景色を現はして居りますから、其景を見た感情と云ふものは、其觀た時のみならずこれを後から想出した其記憶からも愉快を取ることが出來まする、今の世の中は昔の世の中と違ひまして、私共は澤山の人に接觸して居りますけれ

ども、其反對の人を見ないやうな人の居ない所に往かうと云ふことは大變六ケ敷い、然るに山の上には神が造つたのみで未だ人の手に觸れない場所があります、即ち山上には雪があり、或は氷があり、或は岩がある、さうしてマルて天然の儘遺つて居ります、勿論麓の方には家畜の羊であるとか牛であるとか、或は人家であるとか人であるとか、其他の物が澤山見えますが、次第に登つて岩角を廻り人類の少しも見えない所に參りて、天然の外に何も見えない場所に立つた時の感情、實に何とも言へません、此人間世界、此物質世界は面白い愉快の所には違ひありませぬが、併ながら時として天然自然と云ふものが一層の愉快を與へることがあります、ひろ〳〵としたる大洋を航海して居ります時にも、何も外に見るものが御座りませんで淋しい靜かな感情が起りますが山を見た時は海上に於ける淋しい感情とは少し違つた靜な感情を得ます、それで神は既に此人間世界に美といふものを現はして居ります、私共此活きて居ります者は人間世界の美を占めて居ります、即ち此下に生へて居ります小さい花瓣の一つでも眞に奇麗に描出されて居りますけれども、山の莊嚴なる所の景色と云ふものは眞に此人間世界の美の比ではございませぬ。

第六は「過度の精神活動を癒しますには登山は良藥でございます」一體活潑な腦髓を持つて居る人は常に其職務其他の上に心をつかふ者でありますが登山する時には心も身體も強く筋肉運動に向つて働いて居ります、又世の中の仕事を巧に處置する仕方を了解しやうと思ふには登山が非常に効能があります、即ち山に登るにはどう云ふ道を取るのが安心であるかと云ふ事を考へねばなりません、例ば氷原を渡る場合には其氷原中にある割目の危險を避けなければ

ならぬ、併ながら斯う云ふことは案内者が能く取計つて呉れますが、時としては自分で考へなければならぬことがあります、或時私は一人の女子と地圖を手にして山に登つたことがございますが、さういふ時には非常に色々のことを考へなければならぬものであります、さう云ふ風に困難して山に登り詰めた時には、一つの仕事を仕上げた時のやうな實に愉快な好い感じが致します、それは忍耐と勇氣とに依て一つの仕事を仕遂げたのですから勿論好い感じが致しませう、併しこれは何年もの間に得たのではない僅二十四時間も掛つて、斯う云ふやうな感情を得たのでございます。

是から短かい登山の御話を致します、即ち時間に致して丁度二十四時間位の登山をする御話を申上げます、大概むつかしい登山を致しまするには其前日の晝頃に立ちまして、それから何處かの小屋の内か何かで其夜を過ごして翌朝立つて行くのでありますが先づさう云ふやうな登山でなく、短い容易いものに就て申上げます。

偖それを致しますには其前の晩早く眠りまして、早朝に立ちます、さうして之には三つの用意すべき物があります、即ち良い案内者とそれから丈夫の靴と食物と此三つでございます、案内者は大概免状を持つて居ります、其免状には一等とか、二等とかの種類がありますから、初め頼む時其免状を見せてもらひますれば其案内者の資格も能く分ります、それから靴は非常に丈夫な皮で拵えたもので、底に釘を澤山打つてあるのが宜しうございます、着物はスカートが短かくて上着がフラネルで出來て衿や袖口の處が頸や手頸にかぶさる樣にひろくなつて居るので、それからへりの開いて居る帽子を被つて網を顔に懸けます、もう一つ入用のは、白いやうな油でござい

ます、それは日に燒けますから十五分位に顔に塗つて日に燒けないやうに致します、それからモウ一ツは雪の上に當る日光が非常に强う御座いまして自然眼を害しますから、靑色の目鏡を持つて往かなければなりませぬ、又大層丈夫な毛糸で拵えてある手袋と、其外にショールと靴の上に附けるゲイター、是は雨の降つた時に着ける脚半のやうな物でございます、それから初めて登る人はどう云ふ物を持つて行くかと云ふと、杖の先に錐のやうなものが着いて居る杖を持つて往くのが宜しうございます、又經驗のある人は後に縄で御目に懸けますが、木の先に三ケ月のやうな金が着いて居る恰度鶴嘴と云ふ道普請をする人が持つて居るものと略々同じ形の物を持つて參ります、かく用意が整ふて愈登山をする時になりますと早く起きなければなりませんから、其時は洵に詰らないと云ふ感じが起る、なぜならば早くから起されて眠いのに欠伸をしながら隣近所の人のまだ寢て居るのを妨げないやうに靜かに歩かなければならぬ、朝飯を食べますにも餘り欲しいとは思ひませぬが、案内者が食べさせるまではどの位長く食べないて居るか分らないから先食物も喰べなければならぬ、それで軈て出て行きますると戸外に案内者が待つて居ります、何を持つて居るかと云へば鉞のやうな氷を切るもの、それからランプを持つて居る、恰度日本の巡査が持つて居るやうなランプでございます、それから食物と縄とを用意して段々出立して行きますと、まだ星が出て居つて薄暗い、暫く行きますと段々星が消えまして旭日が段々登つて來る、これから段々山へ登ります、やがて雪でもある所に參りますと、綱で以て皆の腰を縛ります、其一人と一人の間は二ヤード位離れて居ります、なぜさう云ふ風にするかと云へば雪の上で辷つて轉んだ時分に

其人を助ける事の出來るやうに綱で繋いであるのでございます、尤も新らしい雪の積つて居る時は危險であります、それは雪がザク／＼して居りまして中へ這入つて足が拔けないやうなことがある、或は雪が固くなつて居る時にどうするかと云ふと、唯今の案內者が持つて居る鳶口で氷を切つて足の這入る位に穴を鑿つて道を拵えて行くのであります、登山の間に七人位一緒に歩いて、足が一緒に雪の中へ這入つて拔けない事などもありますが、さう云ふ大變危險な場合は少う御座います。

唯今申上げましたのは氷の上を歩るく仕方でありますが、或場合には岩山に登らなければならぬことがあります、其場合に指や足が手傳をするばかりでなく、膝も入用てありますし腮なども必要なことがあります、それで皆て助けて登つて參ります、非常な危險の場合には二人の案內者の間に挾まれて、一人が引上げて一人が後を押して助けて上げると云ふ場合もございます、時には險阻な山を登る際には案內者が綱つてある綱を引いて空中に吊上げるやうなこともある、さうして又廣い氷原を渡る場合に、時々氷の裂目に落ちるなど〻云ふ危險がありますから用心をしなければならぬ、時としては裂目の上に雪が積つて、裂目があることを知らずに落ちて出られないと云ふ事があります、或は又雪の頹れが落ちて來て危險なこともございます、或時は又山から石が落ちて來ることなどもありますこれは上の人が石を蹴落すので非常に危險であります、又中には疲れた爲に休まなければならぬことなどもあります、斯う云ふやうな色々の困難を改いて山の頂上へ登つた時はどうでありませうか、とても言葉にはあらはされぬ程の非常な愉快を得るのであります、下ります時には登る時より容易でありますが、山に依りましては

下るに困難なこともあります、さう云ふ困難を致しまして再度緣の土地を見ることが出來て家へ歸つて參りますと、御腹がすいて夕方の御飯を非常においしくたべることが出來ます、晝間山へ登つた時の困難を思出しながら食事を致します愉快と、其晩熟睡する愉快と云ふものは登山をしない人には到底想像することが出來ませぬ。

終りに臨んで一言申しますが、私自身は過度に精神をつかひ、さうして色々面倒な仕事を致しました者て御座ります、然るに私の身躰は元來丈夫ではございません、そこで若し私が登山をしたり身躰の運動を能く致しませんでしたならば、過度の勞働に耐へて今までの樣な繁務に從事せられなかつたか知れませぬ、實に私に多くの仕事の出來たと云ふのは登山を度々した御蔭であると考へます、日本の御婦人、殊に貴婦人方は將來日本に向つて色々成さるべき仕事を持つて居られませうと思ひますから、其仕事をするに就て、私は此處に二ツの必要なことがあるだらうと思ひます、其一ツは何かと云へば高尚の教育を受けることゝ、二ツには好い慰みを得ると云ふことが必要だらうと考へまする、それに就て躰力も同時に發達させなければならぬと思ひます、其躰力を養成するには色々方法もございませうが、僅かの費用を以て僅かの時間に目的を達し得るのは登山であると思ひますから、それで聊か登山に就ての所感を申述べました次第でございます。　（了）





寄書

●胃癌の話

青森病院長 醫學士　竹中成憲君

今回東京に於て日本聯合醫學會の開設に際し氏の上京せられたるを聞き記者は役員の命を帶び其旅宿を訪ひ平談の間に時事を述べ尚將來寄稿の事を依頼せり、話次偶々肺病談に移りしが氏は今回同病に關する有力なる材料を蒐集せられしとの事なれば他日光彩を放ちて本欄に登載することあるべし諸姉之を諒せよ

腫物の種類多し隨て名稱の數も之に合するを以て凡十五種の病名あり其中は惡性なるものと善性なるものとあり癌又は癌腫と稱するものは惡性中の惡なるものなり此腫物は殆んど身体の各部に來り世俗に『出物腫物所を嫌はず』といふが如し然れども本腫物は手足に來る事なく癌腫の患者一百人ありとせむか其中の四十人は『胃』の癌腫なりとす故に『胃癌』の名の屢々諸君の耳に入るも明かなる統計上の結果なり昔の『カクの病』といふは本症なり

（原因）　本病は年齢に關す滿四十歳以上にあらざれば發生し難し總ての癌腫患者の四分の三は四十歳以上なりとの統計確實なり只女子の子宮と乳腺は比較的若き人に之を見る男子のものは普通五十歳以上とす故に予常に戯て曰く『癌腫は恐るゝに足らず人は癌腫の發生するまで生くれは足れり』と二十世紀の人間は五十歳を超へて尚ほ社會の爲め働くの勇氣なかるべからず此言たるや肺病に對していへる語なり肺病は滿二十歳内外にして死すを通例とす父は子の爲めにありとあらゆる財産を其敎育に注入して一人前となるのとき肺病の爲めに死するもの實に屈指に遑あらず茲を以て肺病は癌腫よりも恐ろしといふな

り然れとも癌腫の恐るべきは經驗を有する有爲の士を殺すにあり
女子に子宮及び乳腺に最も多く本病を發する事は前に述べたり
慢性の胃病にして食後胃痛甚しきものは胃に潰瘍（てきもの）の生じある事多し此潰瘍の全治したる瘢痕（きずあと）より癌腫の發生する事多し故に胃病の人は潰瘍の生ぜざる前に之を治し置くべきなり
本病は遺傳すとの説あり決して輕視すべからず明に之を證明し得る場合尠からずナポレオン第一世は五十二才を期して本病の爲めに死せるが（此事は拙著内科學にも記し置けり）元來ボナパルト家は癌腫血族なりといふことは内科書例之はカハチ氏著に明記しあり故に生命保險を爲すに當り血族中本病あるときは掛金の增額を要する事と大抵の社は爲しあり
癌腫は寄生物に因つて起るといふ説もあり細菌（下等植物）原虫（下等動物）とともに原因として揭げらるも蓋し疑はし此説を爲さしむるの理由は血族に關せす住居を共にするものに本病を連發する事あると土地に據りて本病の發生に多寡あるかゆゑなり例之はロシヤ國エジプト國には頗る稀れにしてスウヰツツル國には本病甚だ多しといふか如き是なり不幸にして本邦には本病多し概して全世界に於て本病は肺病とともに增加しつゝあり保險會社の恐るゝものは肺病を第一とし卒中を第二とす癌腫亦餘りに席順を下らず
其他肉食するもの飲酒する者に本病多しとかいふは採るに足らざる誘因なるか如し予は蕃椒（なんばん）胡椒、カレー粉の如き辛きものは多量に之を用ゆるときは胃を刺戟して或は誘因となるが如き事なきにあらずと信ず不消化なる硬き肉を食ひ日本酒よりもアルコール強き酒を常用するは素より良しからず酒の害は酒の多量よりも其酒の強弱如何にあり朝鮮人は世界人種中最も辛きものを好む人種なり彼國の癌腫統計の出づるは予の鶴首して待つ所なり何れにするも上記の有害らしきものを避け己れの歯は善

く手入を爲し置くべき事とす
兎に角本病の事は目下醫學社會の大問題にして肺病に次て學者の苦心する所なり外國には癌腫研究會なるもの起り盛に研究を爲しつゝあり本邦の癌腫はベルツ博士調査して之を右の會に報告する筈なり近くは中江兆民先生の病は食道の癌腫なりき

（容躰）　初め胃病の容躰徐々に來り遂には胃に硬結塊（かたまり）を觸る、患者は胃痛を訴へ血液を吐する事あり多くは其色汁粉の如し、容貌良しからず醫は其顏色に因り既に本病の疑を喚起す

（經過）　本病は初發より滿一年にして死すとは一般の實驗なり中江兆民先生の『一年有半』は『一年』と改むべし

『治療法』　癌腫と確定したれば死を待つの外策なし疼痛其他の苦悶は内科醫に於て之を鎭靜する事を得其未た蔓延せさるものに在ては今日の外科學は易く其患部を切り出して本人の餘命を永からしむる事を得、外科手術に因て再發もなきほどに治療し得る事は難し

尤　近來の外科研究に據れば胃の腑は全然之を抽出するも人は死する事なしといふ其結果胃は生活の上に必用のものにあらずとの說を出せり蓋し極端論にして實地に應用するの日遠きは彌陀の在所よりも遠しと知らるべし殊に患者の手術を受くるの決心を爲すは多くは遲きに過ぎ見込なきの時たるを常とするが故に益々手術の良効を收むる事難し

此の如く不治の病に罹りしもの愈重症に陷り苦痛甚しきときは患者に鎭靜麻醉の藥を與へ其苦痛を除くとともに死を早むるの法あり之を『穩死法』（洋語にてオイタナシー『オイ』とは安の意『タナシー』は死、希語なり）といふ宗敎熱に深き人は實に此法を希望するものあり然れとも是一の殺人罪を構成するものといふべし現今法律家の意見區々にして一定せずペーゼルの刑法學者オッペンハイム氏は『醫の病躰及び健躰を侵すの權』と題する書中、穩死の目的にて麻醉藥を投するは縱令其死を早むること明な

るも刑法上の罪とならすと言へり博士フォン、アンゲーレル氏(一八九九年＝我明治三十二年)もオッペンハイム氏の説を是認せり之に反對するの書は博士ハイムベルゲル氏の著『刑法と醫術』と題するもの是なり氏は穩死法は自殺幇助の罪を犯すものとし刑法上の責を免かれずと論ぜり我國の刑法第三百二十條に—又は囑托を受けて自殺人のために手を下したるものは六月以上三年以下の輕禁錮—自殺の補助をなしたるものは一等を減ず』とあり是醫家の法律家と相俟て研究すべきものなり

今回獨逸聯邦サクセン國撰出代議士の不治の病にして苦痛甚しきものには苦痛を去る爲めに多量の痲醉藥を投する(毒殺といふは文字不穩當)の權理を醫師に附與すべしとの請願を獨逸國會に提出せしと云ふ右に述ぶる『穩死法』(オイタナシー)にして敢て新奇の事にあらず我國人には妙に聞ゆべし

此頃中外醫事新報社のドクトル富士川君此事につき世の注意を促せり予は我刑法に穩死につき世界に先ちて明文を掲げむ事を望む

血清流行の今日『癌腫血清』なるものあり一の好奇療法たるのみ　(完)



食は只能く和らげて暖かに
足らはぬほどは藥にもます

●不時の災難に遭遇したる時の心得　(前號の續)

在大學院　Dr. N. N.

●吐血した時の心得

口から吐く血には二通りあつて、一つは肺に故障があつて其處から出る血と、一つは胃に故障があつて其處から出る血とである、尤も此外にも咽喉が惡く

て其處から血が出る事があるが、咽喉から出る血は嗽して少量であつて咯痰に附着て出る位が山てあるが、肺や胃から出る血は中々分量が多くて、患者は假に血を失つて蒼白となり、當人は勿論周圍の人に非常に驚愕させるものである、

扨て吐いた血が胃から出た血か、或は又肺から出た血であると云ふ事を區別するのは、左程困難な事ではない、肺から出た血は鮮紅で泡立ちて居るが、胃から出た血は暗紅色で、時とすると茶色を帶て惡臭がある事がある、

これ丈けで血が肺から出たか、或は胃から出たのかと云ふ事は判然するのであるが、さて肺から血が出たとすれば、何云ふ時に出るかと云ふに、先づ最も多いのは肺結核である、世間には己が肺結核に罹つて居ると云ふ事を知らないで居て、血を吐て始めて氣が付く人が隨分多い、其他又「肺ヂストマ」と云ふ病氣の人抔も血を吐く事があるが、之は結核に比すれば遙に少い、其他又木が倒れて胸に當るとか、「ベースボール」をして遊んで居て、誤つて球が胸に強く當つたと云ふ樣に、胸を強く打つた時にも肺から血が出る事がある、

肺から血が出る時には、當人は胸の眞中が急に熱くなる樣に感じて、頻りに嗽咳が出て之と共に多量の血を吐くのであるが、斯云ふ場合には何うしたら可いかと云ふのは、先づ第一は使者を馳て醫者を招く事であるが、之と同時に病人を靜に寢かして、頭部を高くし靜に呼吸をさせて、可成咳嗽が出ない樣にしなければならない、又病人が氣を落さない樣に慰めて元氣を付けてやらねばならないが、併し無暗に話をしたり、色々な事を聞たり、病人の周圍でがや〳〵するのは全く禁物である、されば病人の傍には必要な人の外は居らぬがよい、さうして西洋手拭を冷い水で絞つて胸に當るがよい、日本手拭であれば二三枚重ねて用ひなければ役に立たない、若し氷が手近く間に合へば之で胸に冷罨法を施せば尚ほよい、(冷罨法の事は昨年八月頃の本誌看護法の條下に

裁つて居たと思ふ）それから又少量の冷水なり、氷の碎片なりを與へるのもよい、兎に角斯云ふ風にして醫者の來るのを待つて居るより仕方がない、

次に胃から血の出るのは、胃に潰瘍と云ふ病氣がある時や、胃癌杯の出來た時で、潰瘍は主に若い人に多く、出た血も暗赤色で臭氣がないが、胃癌は主に四十才以上の老人に多い病で、出る血も多くは茶色を帶びて、丁度コーヒーの粕の樣な狀をして居る、さうして惡臭がするから直ぐ區別が出來るのである、兎に角胃から血が出た場合にも、病人を靜に寢せる事が第一で、次にみづ落の處に冷罨法を施す事が必要である、氷片や冷水の少量は與へてよい、兎に角醫者を招て、適當の藥を貰ふ事を忘れてはならない、

●鼻や耳から出血した時の心得

衂血即ち鼻から血の出た時の療法は、素人のよく知つて居る處で、鼻を摘んで頭の後方を冷すとか、或はもんだ紙や綿の類を丸めて、之で鼻の孔に栓をして置くとか、或は鼻の根元（鼻脊）を冷すとかすると大抵は血が止るものである、又此際頭部は成る丈下げぬがよい、又炎天に居らずに日陰の涼しい處に往くがよい、輕度の衂血なれば之ですぐ止るが、重いのになると中々止らなくて困る事がある、斯云ふ時には矢張り醫者を招て色々な藥を用ひるとか、或は又口の奧から鼻の中に栓をかふとかするより、外に仕方がないのである、其外又男にせよ女にせよ、年頃になると衂血が屢々出て困るものであるが、斯云ふ人は一日に一二回づゝ冷水を金盥に入れて、之を鼻から吸い込んで口から出す樣にして居ると、遂には衂血が止るものである、冷水の中に少量の鹽を混ぜれば尚ほよい、耳から血の出るのは、主に頭部を強く打つた時杯にある事で、之は顳顬骨と云つて耳の中にある、頭の骨が碎けて其處から血が出るのであつて、決して輕い事でないから、直ぐ醫者を招くより外はないのであるが、兎に角周圍の人は不潔なものが、耳から這入らない樣に、清潔な綿か布片で耳

の孔に栓をかつて、病人を靜に寢かせて置て、醫者の來るのを待つより外に仕方はないのである、

●人乳に就て

小供が生まれますれば先づ早速營養物を與へなければなりませんことは分つて居ることとですが其養ひとして最もよきものは勿論母の乳にこしたものはありません此乳の内には人生に最も必要なる種々の物質が含んで居ります牛乳もよい物ではありますが人乳に比べますれば遙かに劣ります今其證據を擧げますならば母の乳を飲ませて育つた子供は牛乳或は其他の營養物で養つたものより死亡數が少ない即ち牛乳て養ひましたものは百人の中に平均六十人と云ふ多數が死亡致しますのに人乳にて養ひましたものは百人の内にて十八人より二十人内外であります之を見ても知れます次に乳母の乳ですが之れは百人の中で三十人程死亡する割合てありますそこで其母が子供に乳を哺ませますと子供の出來方が多少惡るくなりますが子供が生れてから直ぐに乳母にやるとか或は人造の乳で育てれば子供の生れ方は多くなりますかわりに子供の死亡することは又多い假令ひ死なずとするも病に罹り易いとか身躰が弱いと云ふ樣な有樣ですから親が子供に乳を飲ませることが減れば減る程子供の死亡が多くなッて來ると云ふことが言へますのみならず西洋の統計によりて明かでありますソレて日本では幸ひに子供の死亡は西洋に比べて見まして餘程少ないのは實に幸福なことてありますがコレは日本では多く母乳を用ふる結果て御座います母乳とても勿論母躰の故障のある乳は決して飲ましてはなりませんが歐羅巴では惡るい風習が行はれまして母親に澤山乳がありながら夫れを飲ませると母親が弱くなるとか或は早くお婆アさんになつて仕舞ふとか云ふとを申しまして母の乳を用ひないのも多くあります成程母親が自分で乳を飲ませるとはやくお婆アさんにはなるて御座いませうが現在自分の乳が澤山にあるのに直ちに人造の食物や牛乳とか乳母の乳をのませると云ふのは餘り極端てあります子供に

乳を飲ませる時代と申すのは僅か一ヶ年位で充分でありますから此等のことは西洋に心醉してはなりません併し日本では餘り乳を長く飲ませ過ぎる弊がありまして甚だしきは七才八才迄も飲ますと云ふ樣なことも聞きますがコレで母親の健康にもわるく又小兒も夫れが爲めに胃が大變弱く虚弱なものとなつて仕舞ひます假令ひ末子だから如何に可憐と云つても決して長く飲ませてはなりません西洋では授乳餘り短きに失し日本にては餘り長きに失するの傾きがありますから是れは宜しく折衷したいものであります

●產の位置

お產の位置は追々舊來の位置を改めるに至りましたが舊來の位置と申すのはどう云ふものかと申しますのに薄暗い室内に坐はつてするのが日本の風でありますが之れは誠に害の有ることでございます

尤も世界萬國何れの國に於きましても最初の考へは皆同じ樣で御座いまして丁度今から五六百年前の獨逸の產の圖を見ますのに日本の習慣と同じ樣でありま す尚ほ遡のぼつて未開の國を尋ねて見ますれば極危險な產を致して居ります國が文明に赴くにしたがひまして產床の位置は變遷して來るものと思はれます

印度の「セナアン」と云ふ所では木の枝に自分のからだを縛り付けて置いて下から產婆が受取と云ふ躰裁です又「メキシコ」邊の產を見ますと日本で產をする時に子安の觀音樣や色々の神樣の掛物をつるして置くといふ有樣で今でもさういふ風に致して居ります又「ペルシヤ」では產といふものは不潔なものであるから家の內で產をしては祟るといふ考へからわざわざ砂原でお產を致します以太利は流石に早くから開けて居りましたから產床の位置は他の國より遙かに立派で御座いますかく色々樣々に產床の位置が國々に依りて違つて居りますが直にからだを縦にする位置を取つたものと見へますコレといふのは力を出すには橫に居るよりは縦に居る方が力の出し樣が多いといふ所からつまりお產をする時に縦の位置を取つた

のでありますソコで日本では産の時に坐りながら生むのが習慣でございますかコレは歐米の開明なる國々に於ては坐わつて産をするといふことはありません殊に坐わつて居りまして第一危險なることは御承知の通り分娩の際は多少血液を失ひ段々血が下つて來まして一時腦に貧血を起し其れか爲めに眩暈が致します然るに日本では之と反對で血が上ると申して居りますが之は間違で血が上るのでなくて下るのでありますゆゑに若し頭を上げた爲めにフラ〳〵としましたならば少しの間、頭を下けて居りますと僅かの間に氣分がよくなりますソレデ正則の敎授を受けました産婆ならば産の位置は寢て居る樣にと勸めます座わつておいて下さいなどゝ申すのは舊式の産婆で御坐います故に産床の位置は必す寢て居て生むのが今日開明の産床の有樣てす

●種痘中の心得

一入浴　種痘の後は八日の間、決して湯に入るべからず但腰湯をなし又は種痘の場所をよけて湯、水等にて肢体をふくことは差支へなし

一衣服　衣服の中にも襦袢は殊に清潔なるを用ひるべし糊強く、又は地合荒くして痘粒を摩潰す虞あるものはよろしからず

一飲食　毒斷に及ばず然れども消化やすき物をえらびて用ひるべし酒はのみすぐすべからず

一痘胞　痘胞は大切にして決して搔破り又は痂蓋を剝す可からず

一疾病　種痘後は、殊に風をひかぬ樣にすべしもし熱氣高くなりて降らず又は異なる腫物など出來るか他に病氣の氣味あらば早速醫師の診察を受く可し

一種痘せしもの時として天然痘に感ずるものあるは其痘の不感善か又は効力年限を經たるものなり故に善感者と云へども凡そ五年を經たるときは其効力を失ふものなれば臨時に種痘すべきものとす

飲食する爲めに生活せず
生活する爲めに飲食せよ



内外實用料理

女子美術學校舍監　横井たま子

●三國取合卓子料理

●小菜献立

第一　大平物（西洋日本折衷）
第二　砂蝦球（支那）
第三　櫻鯛の丸蒸し（日本）
第四　ちらしすし（日本）
第四　和へもの（日本）

●點心

一七星湯
一煎茶
一夏蜜柑

大平物々具は鳥又は牛肉を細かに切り、蛤のむき身をよく洗ひ笊に上げ深き鍋に製油を少しとかし肉を入れて煎りつけ水を充分入れて煮るなり肉のほとんど柔かになるころ野菜を入れて又煮て味淋と醬油にて味つけメリケン粉を水にとかして汁に入れ出來上りたらば大平又は大鉢にうつし匙をつけて出すべし

一竹の子は湯でゝ水に浸し横にうすく小さくきりて生椎茸は水にて洗ひ細く又は四つ切に切るのみ銀杏は皮をむき澁皮のとれる程ざつと煎り胡蘿蔔は花形にきり、慈姑は皮をむき輪切にす又は四つ切六きりにするもよし

●砂蝦球

小蝦の皮をむき笊にならべメリケン粉の中に玉子の白身のみを入れよくかき交ぜ水を入れて少しゆるめ鹽を加へ蝦を入れ衣をつけて油にて揚るなり、鉢に盛り卓子に上ぼす

●櫻鯛の丸蒸

鯛は人數に應じて大小をゑらび先鱗を引き腹はそのまゝにして鹽を澤山ふりかけ暫時置鹽きゝたる時、ゑらより細長き刄にて脊骨のきはより切入れてわたをぬき脊骨尾先までさき裏表とも右の如くして骨を一つ殘らず切取り身に小刀のあたらぬやうにし骨はゆびにて折小骨は小刀にてすきとりよく水にてあらひその腹の中へうの花をいれてよく竹の皮にて開かぬ樣に結び蒸すなり、うの花の作方は始めよく摺油にてよく煎り白砂糖醤油にて味つけいりたる麻の身、生姜、椎茸、きくらげ、いり栗、銀杏三ッ葉などきざみよく交せ合鯛の腹に入れるなり

●ちらしすし

散しすし又は五もくすし、さはきすしともいふ飯は釜より飯桶にうつす時直ちに酢をふりかけ團扇にてさませばつやの出るなり又その酢の中へ鹽少々白砂糖多量に入れまぜ用ふれば飯の味ひよろし、又具の種ものは四季折々のしゆんに適するものを用ふ、春は魚も野菜も多ければすしは春を最もよしとす

鰕のおぼろ、さより、千葉玉子、椎茸、かんぴやう、竹の子、獨活、蓮、慈姑、生姜、三ッ葉、淺草海苔等なり

（鰕のおぼろは小鰕の皮をむき水にて洗ひ味醂と鹽にてざつと煮てその汁とも摺鉢にてすり而して後又之を本のなべに入れてばら〳〵になるまで煎り上げるなり

針嘴魚はよく骨を拔き去り鹽をふりかけ酢にひたし置用る時細そく切るなり

玉子は鹽と砂糖にて淡味をつけ玉子焼にして長さ一寸巾二分位

椎茸と干瓢は通常の煮方よりあまく煮る之も一寸位巾二分位干瓢は一寸位

獨活は皮をむき生のまゝちよつと鹽をあてゝ酢に浸し置くなり、竹の子は湯てゝわさ〳〵うすく切味醂と醤油にて煮るなり

蓮はうすく切水にて洗ひ少し水を入れ酢と鹽白砂糖にて始より煮、慈姑も皮をむき丸のまゝ湯てゝ鹽と

白砂糖のみにて煮るなり蓮は食紅を以て染るもうつくし
生姜は一分角程の細かきさいの目に切るなり海苔は炙りて揉みかけるなり三ッ葉はざつと湯てゝ五分位ゐに切りすにしたし置き
二葉紫蘇は生のまゝにてふりかけるなり
鉢にすめしを盛時は飯を一側ごとに具をちらし山に盛り上の處にすの肴なとこと〴〵く盛り出すなり、

●和へもの

獨活の皮をむき短冊に切り水に浸しおき笊に上げて若布も水に浸し柔らかになりたる度を計り細かに切りて水氣を去り、わけぎ或はのびるを湯てゝ一寸程にきりゆるやかにしぼり鮪の切身を大さいに切り(又は蛤のむき身にてもよし之はざつと湯がくなり)白味噌を裏ごしにてこし酢にてゆるめ砂糖にておぢつけ前の具を入れて交合せ鉢に盛り卓に上す

●七星湯

甘酒を摺り裏ごしにし、おまきを好まば適宜にざら目砂糖を入れ玉子七個(之は壹人に付壹個づゝ)つぶれぬやうに入れどんぶり鉢共に蒸して出す、又の法は湯を煮たて、玉子をつぶれぬやうにわりて入れよく煮るなり、別にあま酒、砂糖を合せたるを温め右の玉子を入れて出す

●茶の入れ法は前號にしるす

●夏蜜柑

夏蜜柑の皮をむき又一ふさごとに皮を破りて身計り出しどんぶり鉢に盛りざら目砂糖を上に多くかけて出す又は壹人前づゝ小皿に盛り砂糖をかけ小匙をつけて出すもよし、

おき滿ちてすなはち臥せば
腰いたみいかさま股に振出てに來ん



質疑欄

質問者　八王子町　一會員

問　私方雇人頑癬病にて惱み居り種々療養を加へ候へども其効更に無之候何かな宜敷療法御教示被下度候

解答者　本會　審事員

答　頑癬と云ふは實に難儀なる病なれば、定めて御困りの事と存じ候、此の病には「クリサロビン」を、「トラウマチチン」に溶解したるもの、最も効を奏し候へども、何分此の藥は劇藥にて、之を濫用する時は恐るべき危險を生ずる憂ひあれば、適當なる皮膚病科專門醫の治療を請はるゝが第一と存じ候、賣藥抔を用ひて益すゝ症狀を增惡するは、頗る不得策と存じ候、(皮膚病專門家は東京にては、大學の土肥博士、或は岡村龍彦博士等最も有名なり)

質問者　牛込　黑澤たか子

問　ソップは滋養物と思ひ居り候處三浦博士の御演說により唯一の滋養物に無之由其理由伺上度候

解答者　Dr. N. N.

答　三浦博士の言はるゝ通り、ソップは滋養物としては殆ど無効の物に有之候、抑も吾々が滋養物として肉類を食するは、其内に存する蛋白質を利用するが爲に有之候處、蛋白質は强き温度に逢ふ時は凝固するものなれば、ソップを製する如く肉に水を加へて煮る時は、肉中の蛋白質は殆ど凝固して、ソップ中に浸出する蛋白質の量は、頗る微々たる者と相成る譯なれば、ソップを滋養物として用ふるは、誠に謂れなき次第に候、況してソップの上に浮ぶ脂肪を杓ひ取る時は、養分は益々減少する譯に候、されどソップ中には肉中に存する「エキス」分丈は溶け居るものなれば、之を用ふる時は啻に味良きのみならず、頗る爽快に感じ隨つて食慾を增進するものなれ

は、此の目的に向つてツップを用ゆるは頗る必要の事に御座候、右の次第なれば肉中の滋養分、即ち蛋白質はツップに出でずして、反つてツップ殼の内に殘り居る譯なれば、胃の惡しき方は格別なれども、胃の丈夫なる方々はツップ殼なりとて、決して輕蔑せず適當の調理法を加へて、之を副食物に用ひ給ひなば、大に身躰を健康ならしむる助けと可相成と存じ候、序でなれば申上げ置き候、肉は餘り新鮮なるものよりも少しく時經ちたるが消化し易く候、(勿論時經ちて腐敗し初めたる肉の有害なるは申上ぐる迄も無之候へ共、)又肉は生なるよりも煮たる方消化し易く候へ共、さりとて又餘り煮過ぎたるは反て消化惡しく、最も良きは攝氏の六十度より七十度位に溫めたる者に候、されば「ビフテキ」「すき燒」抔は肉を用ゐるには最も適當なる方法に有之候、

質問者　岡山　一　會　員

問　今日の肺病治療法は如何なる方法を採用するを可と致し候哉治療法を詳細御教示被下度候

解答者　本會　審　事　員

答　肺病は實に多き病に候へば、其治療法に付ても亦古來種々の方法顯出致し、中には彼のコッホ氏の「ツベルクリン」療法の如く、一時は世間より非常の喝采をはくしたるものも有之候へ共、さりとて今日迄之と申す根治療法は無之候、昨年來「ヘトール」と申す藥を注射する時は肺病が治るとて、一部の醫者は頻りに之を賞用致し居り候へ共、之れとても必ず肺病に有効なるや否やは未た判然せざる譯に候、されば今日の處にては、先づ肺病患者の治療法には適當なる安靜と、滋養ある食物と、新鮮なる空氣の外は之と申して、御請合申す樣な適藥は之なく候、尤も斯くは申すもの丶咳嗽が出れば咳嗽が止る藥、熱が出れば熱を下げる藥、食慾が減ずれば之を増進する藥等を用ひる事は申す迄もなき次第に候、兎に角患者の狀態に依り其の療法にも異動を生ずる者に有之候間、適當の呼吸器病に堪能なる醫師に就て御相談被成可候、(東京なれば佐々木博士靑山博士を始め

とし北里博士等此の道の大家多數に控え居られ候〕

質問者　麹町　井上民子

問　私弟は半面痛にて電氣とマッサァーヂーの治療法を久しく相受け候へ共治り不申口曲りみぐるしく此頃はあまり痛み不申右は他に治療法有之候哉又快復致すものにや

解答者　本會　幹事員

答　多分顏面神經麻痺に罹られたるものと存じ候、顏面神經麻痺の豫後は適當の治療を加へ候へば、輕きものなれば三週間以内に治癒致し候へ共、少しく重症となれば三月位もかゝらずば治り不申候、猶ほ重症になれば中々半年一年にては治り難く候、兎に角治療には色々の内服藥の外に、電氣抔を用ひるより外無之候、兎に角醫者の巧拙は毎度申す通り、病氣の快復に非常の關係を有する者なる事を御記憶有之度候、(神經病大家の事は前號に申し置き候)

(以下の質問次號)

酒が腹に入れば智識は徳利の中に入る

中外彙報

●北清事變の衛生成績一斑

陸軍省醫務局長醫學博士小池正直氏は去る五日の聯合醫學會總會に臨んで北清事變の衛生成績を講演し先づ陸軍臨時衛生勤務の大要より說き起し今回の北清事變に及び歐米諸大戰の衛生成績を引證し且我西南役並に日清役の事例を擧げて帝國陸軍臨時衛生の進步を證明し北清事變の我衛生成績は列國に對して毫も遜色なきのみならず各營間の成績に在りては確かに第一位を占めたりと詳細なる表を示し論結せられたり

●日本聯合醫學會　は昨秋より企畫され其目的は醫學に關する各學會を聯合し及び同學者相會して協同一致親睦を厚ふし倘外國に於ける各學會と氣脈を通じ斯學の輓推を謀るにありて去二日を以つて第一回大會を上野公園内東京音樂學校に於て開き小松宮殿

下の令旨を初め各大臣の祝辭あり兎に角全國に亘れる會員の集合とて着京したる出席者は無慮千五百名に達したり蓋し醫界に於る未曾有の盛會なりといふべし

●大學入院者の注意　地方より出京して大學病院に入院せんとする者を見掛けては五圓乃至三十圓位の手數料を取り當人に代りて入院手續をなす事を營業とする者大學附近に多く中には公然大學病院入院手續案内など云ふ看板を揭げて法外なる金錢を貪る者さへあるより大學にては豫てより此弊を除去せんと勉め又本鄕署に於ても是等の者に注意し追々取締の方法を講ずる筈なるが入院の當人も能く〱注意あるべしとなり

●眼科手術器の發明　目下東京帝國大學醫科大學にて眼科專攻中なる鹿兒島縣人宮原武熊氏は多年苦心の結果、歐米にも未だなき眼球固定鑷子支持器（兼ねるに膿盆及び宮原氏有柄用角板支持器）と稱する手術器械を發明したる由にて元來眼球固定鑷子を使用する際如何に熟練なる助手を用うるも完全の固定甚だ困難にして往々手術の不結果を來すことありしが此器械を使用する時は至極安全に手術をなし得らるゝのみならず從來助手の任務たりし膿盆及び角板の支持の如きも此器械に附屬し居れば其人を要せず總ての裝置簡易にして斯道の進歩を助くること少なからずとて眼科界にては賞讃し居れりといふ

●臺灣ペスト流行地となる　露國政府は三月十八日以後、臺灣を以てペスト流行地と認むる旨布告したる趣栗野露國公使より本月六日發の電報其筋に達したりと

●種痘の厲行　東京府下の天然痘は年々殆ど發生せざることなきも其大流行は概して五年乃至六年目に起るの例にて本年は明治三十年の大流行より恰も六年目に相當し豫防上一層の注意を要する年柄なるを以て東京府廳は此際各郡役所に對し一層種痘を厲行すべき旨を訓達せり左に府下天然痘流行表を揭ぐ（へ種痘の注意は叢談參照のこと）

年次	患者	死亡	患者百人に付死亡
十五年	二	—	—
十六年	—	—	—
十七年	一五	四	二六、六七
十八年	六三	一九	二八、六六
十九年	五三三	二一五	四〇、三四
二十年	一一五	三〇	二六、〇九
廿一年	一三	一	七、六九
廿二年	四二	五	一一、九〇
廿三年	七七	一二	一五、五八
廿四年	一、〇七四	二六三	二四、四九
廿五年	六、四三六	一、五〇六	二三、四〇
廿六年	二一〇	六四	三〇、四八
廿七年	三八六	九三	二四、〇九
廿八年	三七	五	一三、五一
廿九年	二、五〇三	七二〇	二八、七七
三十年	六、一六〇	二、〇七一	三三、六二
卅一年	二一	一	四、七六
卅二年	一〇	—	—
卅三年	八	—	—
卅四年	二七	二	七、四一
卅五年	二	—	—

●空壜問題　此頃新聞紙上に空瓶の危險を喋々するに際し山根警察署長は曰く空瓶の取締のことは丸てない樣なことを或新聞には書いて居るが此事は常に警察署長に注意して居るから相當の取締は屆いて居ると信じて居るエビスビール會社なども注意して見ましたが中々大仕掛けで洗て居る熱湯や亞爾加里液を以て例の毛槍を入れて烈しく洗ひ又蒸滊殺菌を爲す是も其筈然かせされば大概の麥酒は腐つて仕舞ふ酒が細菌の作用で出來ると云ふ事を知る以上は有毒黴菌の混入から之を腐らすといふは不得策である位は會社としても知り居るのみならず警察も充分取締り居るから危險なし云々又丹波博士にも親しく同會社の空壜消毒の實況を觀察せられて大に安心せられしとのことなればビールの空瓶も左まで恐るゝに足らざるべし

●猩紅熱　目下清國上海に於て猩紅熱激しく流行し益々蔓延の兆ある趣に付何時我國へ襲ひ來や測るべからず既に本年一月以降府下に於ても該病患者九名發生せり然るに猩紅熱は往々麻疹と誤り易く又目下流行中の實扶的里亞と併發する場合あるを以て

此際特に豫防に注意し苟も發熱發疹等の徴候あるときは直ちに醫師の治療を受くべしと警視廳え告示せり

●第二回醫術開業試驗　本年第二回醫術開業試驗幷に藥劑師試驗擧行の地及び期日は左の如し

醫術開業試驗

東京府下東京市	十月一日
大阪府下大阪市	十一月七日
熊本縣下熊本市	十月六日
宮城縣下仙臺市	十二月四日

熊本市仙臺市に於ては齒科試驗を擧行せす

藥劑師試驗

東京府下東京市	十一月二十八日
大阪府下大阪市	十一月二十七日

●ベルツ、スクリツバ兩氏の銅像　帝國大學名譽敎授ベルツ氏は二十有五年、同スクリツバ氏は二十有二年の久しき我東京帝國大學學生の薫陶に任じたる功に對し帝國大學にては今回兩氏の爲め一大銅像を建設せんと此頃醫學博士其他數十名集會協議の上青山胤通氏を委員長に山根正次、入澤達吉、三浦謹之助等の諸氏十數名を委員に擧たる由

●黴毒及花柳病豫防萬國聯合會議　白耳義國ブリユツセル府にて本年九月一日より第二回同會議を開くに就き同會議書記長より東京市會議長に宛我東京市より同會議へ委員を派遣せられたき旨照會し來りしを以て金子議長は之れを市參事會に移牒せりといふ

●春季大清潔法　去る廿一日より東京市內各區へ施行す其の規則左の如し

第一條　清潔方法は本令施行の日より五十日以內に施行を完了すべし但し施行の區域及其の日割は警察官吏は當該吏員の指示に從ふべし

第二條　清潔方法の施行程度は左の各號に準據すべし

一　宅地の內外は清潔に掃除し雜草を刈除すること

二　家屋にして甚しく不潔なるものは戶障子を取外し什器及疊等を取出して日光に曝し屋內及床下を掃除すること

三　飮料井戶にして混濁せるものは浚渫し井戶側、井戶流し、臺所流しの破損せるものは修繕を加ふること

四　便所、芥溜及下水を掃除し其の破損せるものは修繕を加ふること

五　床下にして甚しく卑く浸潤せるものは生石灰末を撒布すること但し生石灰末に代ふるに石灰乾燥せる土砂又は木灰を用ふるも妨げなし

六　便所にして甚しく不潔なるものは其の糞池及周圍に生石灰末又は石灰乳を撒布すること

●船岡精神病院の失火　洛北愛宕郡大宮村船岡山精神病院は去十六日午前四時三十分其病室より出火し同六時三十分鎭火したり同病院は平地を距る稍や小高き丘上にあることゝて水利極めて不便なりしかば消防夫の盡力も効を奏せず遂に病室二棟を燒き拂ひ收容患者三十九名の內十八名を燒死せしめたるの大慘事を見るに至れりといふ此種の病院は特に完美したきものあり

●東京府下の傳染病　本年一月一日より同三月十一日迄東京府內に於て傳染病に罹りたる者の數は左の如し

市部	赤痢	十七	內死	四	現在患者	七
	腸チブス	百十一	同	三十一	同	五十一
	猩紅熱	四	…………		同	一
	ジフテリ	三百五十七	同	七十六	同	八十九
	合計	四百八十九	同	百十一	同	百五十一
郡部	赤痢	一	內死	一	…………	
	腸チブス	三十	同	六	現在患者	十四
	ジフテリ	六十三	同	二十九	同	九
	合計	九十四	同	三十六	同	二十三

●赤痢病流行の兆　內務省衞生局調査に依れば本年初發以來本月中旬迄に全國に發生せる赤痢病患者の概數は二百二十人內死亡四十八人にして昨今其發生の傾向を呈せる地方は左の如しと

東京、大阪、兵庫、長崎、神奈川、新潟、埼玉、群馬、愛知、福島、岡山、熊本、宮城、福井、佐賀、山梨、山形、岐阜、秋田、大分、岩手、山口、福岡、茨城、沖繩等の各縣なりと云ふ

●甘茶の差止め　去る四月八日は灌佛會にて府下回向院增上寺其他にては甘茶を沸して參詣人に與ふる慣ひなるが右は衞生上有害なる爲め警視廳にては所轄警察署に差止べき旨を達したれば今年は甘茶を出さぬ處多かりき

●博士稱號授與　文部省學校衞生主事三島通良君には客臘十二月七日を以て論文を提出し今回醫學博士の稱號を授與せられたり尚氏の研究に係る就學年齡問題は文部省より寄送せられたれば不日氏の承諾を經て拔萃することあるべし

看護法

普通看護法（十九）

在大學院　Dr. T. S.

外科的の看護法

●外傷の事

傷と申します中にも二た通り御坐います、一は血の出る傷で、之は刃物で切るとか刺すとか、或は鐵砲で打貫くとか、或は重量の物が身体に當つて挫くとか、と云ふ樣な場合に起るので、此の場合には必ず傷から血が出ます、他の一は血の出ない傷で御坐います、傷をして血の出ないと云ふのは、素人考では少し可笑な事の樣に思はれますが、之は決して怪しむべき事でないので、例へば骨が折た時や、關節がはづれた場合抔には、同じ傷でも皮膚が傷つかないと外には血が出て來ない事が御坐います、斯云ふのは即ち血の出ない傷で御坐います、

先づ血の出る方の傷から申しますと、此の方の傷では例へ小さな傷でも、隨分生命に關する樣な事が御坐います、それはナゼであるかと申しますのに、第一が出血で御坐いまして、若し血が多く出ると其の爲に遂に生命を失ふ事が御坐います、第二は傷から惡い病毒が侵入して、其の毒が身体中にまわつて其の爲に生命を失ふ事があるからで御坐います、されば外科の看護をなさる方は此の二ヶ條の事に十分の注意をなさらなければなりません、先づ第一に血の出るのを防ぐ法、即ち止血法を此次に述へん

●止血法の事

から御話し致します、前にも申しました通り、傷をして血が出る、さうして之が止まらないと、身体の中にある血が減少致しますから、病人が段々弱つて來て、總てに對して抵抗力が減じ、傷の治り方は捗々しく行かないと云ふ樣な譯でありますから、一刻

も早く血を止めなければならないので御座います、扨て血は何云ふ風になつて、身躰の中にあるかと申しますと、人躰には動脈、靜脈、毛細管と云ふ三種の管が御座いまして、此中を血が流れて居ります、此等の管は互に連絡をして居りまして、動脈は胸の中にある心臟と申します處から出て、段々と分れて細き澤山の管となります、其の狀態が丁度水道の鐵管と同じ樣で、淀橋の東京市水道工塲に、往つて御覽になつた方は御承知でありませうが、多摩川の水を淀橋まで引いて來て、此處で一旦漉してから、此水が一本の大きな管の中に這入て行きます、暫くすると此管は又二三の少し小さな管に分れて、其の一つは山の手に行き、一つは下町の方に行きます、此の山の手なり下町なりに行つた管が、又分れて夫から又分れると云ふ樣な工合で、段々と細い管に分れて、遂に家の中に引いてある水道栓や、往來の共用栓になるのであります、丁度一本の木が一本の幹から分れて、段々と小さな枝になり、遂には梢になるのと同じ樣であります、動脈も之と同じ樣に段々と分岐しますが、水道の管と動脈と異る處は、水道では共用栓の處に行きますと其處で管が終りますが動脈の終りは毛細管と云ふ管に連續します、毛細管と云ふのは、血管の中で最も細い處で御坐いまして之が蜘蛛の巣の樣に身躰中に擴がつて居つて、血の中にある滋養分即ち酸素を身躰ぢうに配り、身躰の中に出來る炭酸と云ふ、不用な物を請け取る處で御座います、毛細管が段々集つて小さな靜脈となり、之が段々集つて大きな靜脈となり、遂には上下の大靜脈幹と云ふ大きな靜脈となつて、心臟に這入ります、でありますから血は心臟から出て、動脈の中を通つて毛細管に至り、更に靜脈の中を通つて心臟の中に返つて來るのでありまして、其の動脈の中にある内は、酸素を含んで居る良い血で、色が鮮紅色でありますが、靜脈の中を流れる時分には、最早や酸素の代りに炭酸を含んで居る暗紅色の物となります、之で血管と血の事は御分りになりましたら

が、傷をして血が出ると云ふのは、此の血管が破れて其處から血が出るのでわります、丁度水道の鐵管に損所が出來て、其處から水が往來に溢れ出るのと同じで御座います、

さて前に述べた動脈、靜脈、毛細管の三つの中で、毛細管は身躰ぢう到る處に御座いまして、靜脈は皮膚の下にも所々に御座いますが、動脈になると皮膚の下には決して大きなのは御座いません、皆さん腕を捲つて御覽になると、皮膚の下に青い線がすき透つて見えます、此は靜脈で御座いまして、動脈はもつと深い處に御坐いますから上からは見えません御存じの手の脈所、即ち醫師が病人を診斷する時に、脈を採る所に指を當て見ますと、ドキン／＼と脈を搏つて居ります、之は此の部分のズツト奥の方に、橈骨動脈と云ふ大きな動脈があるからで御座います、

扨て前に述べました通り、毛細管は身躰ぢう到る處に御座いますから、若し傷をした塲合には毛細管は先づ第一に傷つけられます、然し毛細管から出る血は直ぐ止りますから、別に血を止る必要も御座いません、次に動脈の大きなのは、深い處に往かないと御座いませんから、淺い傷ではメツタに傷つきません、之に反して靜脈は皮膚のすぐ下にわつて、之が傷つくと暗紅色の血が徐々に流れ出ます、斯云ふ時に傷をした部分を、高く上げますと血が止ります、次に傷の上に清潔な布片を當てがつて、輕く繃帶をして置くとそれで血が止りますから、左程心配はいりませんが、若し傷が深くて少し大きな動脈を傷つけますれば、鮮紅色の血が切口から迸つて、見る間に患者は多量の血を失つて、蒼白になつてまいります、斯云ふ塲合には決して周章てる事なく、精神を落ち付けて、夫れ／＼血を止る方法を講じなければなりません、

(以下次號)



大日本婦人衛生會記事

●本會春季懇親會景況

豫告の如く本月五日午後一時より本會春季懇親會を小石川植物園内に於て開きたり幸ひ好天氣なりしかば會員續々參集して總計三百餘名に達したり先づ會場に至れは植物園著名の花卉數十種を裝置しあり何れも今を盛りと其妍を競ひ檐前に至り徐ろに庭園を眺望すれは流石に古來の名園イツ來ても眺め見あかぬ風情あり加ふるに櫻花は雪か雲かと迄に咲き初めて天然の壯觀を呈せるに軍樂隊の演奏は嚠喨として池邊松樹の間に起りて一段の興を添へ人心自から融和せり會員は三々五々池邊に小山に逍遙し或は植物溫室を觀覽するもあり三時頃に至り休憩を爲し茶菓の接待あり夫れより會員一同本館に集り役員の挨拶贊成員の祝辭等あり終りて松林小伯鶴の講談あり巧みに高野長英の傳及び滑稽談二齣を演じて會員の頤を解けり右終り尚演奏もありて四時半頃散會せしが贊成員には三浦、丹波の兩博士飯森ドクトル波多野學士和田義質其他の諸氏も出席せられ極めて盛會なりき

當日總裁宮殿下御臨場在らせらるゝ御豫定ありしが御差支の爲め御臨場御見合せの趣仰せ出だされたり

●特別贊成員和田義質氏の祝辭

和田義質氏には今や齢ひ耳順を超ゆると雖とも尚矍鑠として大に慷慨あり懇親會當日は八王子より出席せられ集會席上に於て左の祝辭を朗讀せられたり

祝辭

維時明治三十五年四月私立大日本婦人衛生會春季懇親會を擧行せらるゝに當り不肖義質席末に列せらる何の榮か之に如ん抑も今日の會たる諸君と交誼を重んし懇親を厚ふせらるゝの筵にして一家團欒の如く和氣藹々不言の内に在り雖然默して止む能はさる者あり恭しく上代の事を追想すれば

我高祖神武天皇より拾六代の間列皇の寶算凡一百六年の平均なりと

今や我國人壽の平均は僅に四十年內外しにて其體軀の如きも數十年前に對比せば稍〻矮小の觀なしとせず豈寒心の至りならずや幸に本會のあるあり人世無比の賜なりと謂つべし蓋し婦人衞生の振否は國民體力の良否如何に關し勇壯活潑耐忍溫良の男女を得るも其根元婦人にあり婦人の衞生一日も缺く可らさるや必せり然り而して本會員の總數は現在二千二百六十四人なりと若し會員一人宛の會員を勸誘すれは四千五百二十八人となり今一層奮勵して壹人拾人を得ば二萬二千六百四十人を得るに至る不肖竊に思へらく吾今齡耳順を超ると雖若し國家有事に際するや對岸の火視する能はさる也思ふて此に至れは此泰平の聖代に當り一人にして拾人の會員を勸誘する何の難きとかあらん本日相會する滿場の諸君よ々々黽勉以て會員を募り益々本會を隆盛ならしめ總裁殿下本會の爲に御苦慮あらせらるゝの慈恩に報ひ奉らんとし殿下の萬歲を祝し併せて役員及會員諸君の健康を祈る

明治三十五年四月五日

私立大日本婦人衞生會特別贊成員　和田、淺賀

總裁宮殿下に奉る　同氏

いく藥ありと知らする此君の
惠の露のしげくもあるかな

御國生にかけさへたかき此君の
惠の露は分てこそしれ

●懇親會當日の寄附左の如し（次第不同）

金拾五圓　會長　鍋島侯爵夫人
金壹圓　松井正子
金五圓　山本多穗子
金貳圓（外に五十錢）　高木かう子
金貳圓　吉武輝枝子
金貳圓　丹波貞子
金貳圓　南部隈子

●外に田中すま子より會費として金一圓高橋孝子より同しく五十錢出金せられたり

金參圓　醫學博士　三浦謹之助君

●懇親會出席者（出席順）

總裁宮嘢子外二人、松井正子外四人、東宮富子外三人、樋口八重子、山本多穗子、濵尾副會長外一人、高木かう子、平井こと子外一人、山田くめ子外一人、久保田不二子外一人、野村はま子外一人、三浦數子、吉武輝枝子外二人、小出楮子、羽田三緒子、田村きよ子、横山義子、弘田ます子外四人、山田文子外一人、松井きい子、西尾雄子、山崎くめ子、大木まさ子外一人、松浦つる子、駒塚もと子、鵬津恂、岩崎こ

く子、岩崎すゑ子、中島ゑつ子、岡崎きよ子、緒方悦子、池田とき子、小川きん子、鈴木八重子外一人、松前藤子外一人、町田藤子外一人、金子とき子、今村とみ子、下瀬夫人外三人、高橋孝子、近藤こう子外一人、杉本かれ子、山口てい子外四人、菊地みれ子外二人、中山樂子外一人、西村操子、烏貝ろく子外三人、榊梅子外三人、相馬陸子外二人、今田初子、竹内いれ子、鵜澤糸子、立石春子、吉野やす子、志村恒子、蟲つゞ子、武笠みい子外二人、奥山とし子、長谷川たよ子、町野駒子外一人、瀬川さわ子外一人、高崎たえ子外三人、竹村てい子外一人、菅原政能子外三人、本尾しげ子外二人、三浦とき子外二人、松平芳子、岡田徳子外三人、丹波貞子外三人、田村とき子外三人、岩永さと子外二人、高木やす子、小松かづ子、鍋島會長外五人、内川むめ子外二人、松山傳三郎、高橋泰子外三人、井本秀子、水原眷子外八人、岡山とし子、原みつ子、橋本貞尾子外三人、三宅菜子外一人、田中すま子、島津治子、岸澄子、南部くま子代、背木すゝ子外一人、宇田川利子外一人、穂積松子外五人、渡邊わさ子外十人、鹿島信子外三人、福原とく子、早田純子、大竹いせ子外二人、濱田捨子外二人、澁田見まき子、金坂すゞ子、橋本せう子、鈴村いと子、佐藤梅総子外一人、服部繁子外三人、宮本樂子外五人、白石とわ子、小原まさき子、石崎ひさ子、橋本とよ子外二人、増岡敦子、石丸菜子、田中りう子、小澤きれ子、宮本菜子、今村末子外二人、多賀逕子外四人、中村眷子外一人、馬島圀子外三人、保岡やす子外一人、大谷照知子外一人、井上睦子、富田たま子、渡部なつ子外二人月、田時子外二人、藤村みよ子、戸山菜子外三人、今井きく子、福島つる子外一人、田原その子、岡野なか子外一人、三宅ふじ子、齋藤竹子外一人、林つる子外二人、山口まさよ子外二人、黒澤たか子、松平すま子、其他磯部、楮野、戸沼、佐野、三枝諸氏（以下略）

●本會基本金中へ寄附

終身會員鳩山夫人には今回會費増額に付終身會費補充として左の如く本會基本金中へ寄附せられたり

一金拾圓　　鳩山春子

●宇都宮支會記事

全支會にては去三月九日宇都宮市清住町桂林寺に於て觀梅を兼て例會を開きしに出席會員三十餘名午後一時より開會し左の講演あり午後五時閉會せりといふ

一牛乳の試驗　　白坂貞吉君
一授乳の注意　　中里福次郎君
一看病法　　長野榮三君

●在高崎會員の茶話會

高崎市に於ては爾來益々入會者増加し已に百二十餘名に達したるを以て支會設立の相談を兼ね去十二日

同市幼稚園に於て同地在住會員の茶話會を開かれたるに例に由り出席者非常に多かりしと云ふ午後一時二十分開會先づ横井特別賛成員より先回以來の會務の報導、將來の希望及び入會者の紹介あり又同地阪東日報社より寄贈ありし同日發刊の同日報を各員へ配布せしに恰も同日議定すべき支會規則案も役員撰擧に必要なる姓名錄も記載しありしを以て殊に便利を感じ大に滿場の歡迎を受けたり次に陸軍一等軍醫稻垣眞氏は前回に續き「口の衞生」と題し唇、舌、齒牙、唾液腺等周圍機關の關係より咀嚼嚥下等各己の生理的作用に及び次で日常多く發生する口內諸病の概況幷に平素心得置べき必要の攝生注意及び素人的療法等を判明なる圖畵に就き最も詳細懇切に講話せられ次ぎに眼科專門醫高草木又吉郎氏は「眼の衞生」と題し先づ圖畵に由り眼球一般の構造より諸器官能の概略を說明せられ進で結膜角膜の攝養法及び「トラホーム」、初生兒膿漏眼に對する豫防の方法等を實地に照し實例を擧げ平易懇篤に講演せらる殊に

和洋下婢衞生思想の比較實話は諧謔にして滿場を抱腹失笑せしめたり猶摘出眼球等を携帶せられたるも時限迫り觀覽は次回を期せり次て支會設立案を討議に附せしに某子より廣く之を群馬支會と改むへしとの動議及び條項に追加の建議ありしも當分此儘となす事となり逐條原案に可決せり次て定數の役員を撰擧（支會設立後の役員にして設立前は創立委員也）し一同の散會せしは已に點燈後にして弦月西山に輝くの頃なりしと云ふ

同日賛成員及家族として男子の出席せしは前記三氏の外、莊司陸軍一等軍醫、三宅步兵大尉、土谷特別賛成員、大山醫士等にて頗る盛會なりし由同日の會合の際へ寄贈の物品は左の如し

寫眞	壹葉	大江寫眞師
阪東日報	百枚	阪東日報社
口腔解剖圖	壹葉	稻垣一等軍醫



●本會入會者

○事務所へ申込

●廣島縣双三郡三次町字中町　通常會員　松本友代子
●愛知縣愛知郡熱田町大字中瀬八十一　通常會員　深田幸子
●本所區南二葉町江東病院内　通常會員　高堂ふさ子
●府下豐島縣東大久保村二百五十七　通常會員　杉本かね子
●札幌北一條四四丁目一番北辰病院　通常會員　井上つや子
●府下北豐島郡日暮里村千百十四　通常會員　齋藤ふじ子
●本鄕醫科大學皮膚科　通常會員　小林かつ子
●本所區横網町二丁目五番地　通常會員　富永和氣子

○特別贊成員　和田義質君紹介

●府下八王子町新町二十五番地　通常會員　佐藤はつ子
●仝　町横山七百二十三番地　通常會員　小川榮子
●仝　町八日九十二番地　贊成員　西村茂三郎君
●仝　町八日二十一番地　通常會員　佐藤かつ子
●仝　町元横山三百三十八番地　通常會員　野口しか子
●仝　町八日二十二番地　通常會員　米本ちか子
●仝　町八日四十八番地　通常會員　内田せい子
●仝　町馬乘八番地字南横町　通常會員　向山やす子
●仝　町横山百四十八番地　通常會員　平よね子
●仝　町横山九十八番地　通常會員　金子梅子
●仝　町馬乘九十四番地　通常會員　松本ます子
●仝　町馬乘九十番地　通常會員　松盛その子
●仝　町横山五百三十七番地　贊成員　鈴木康太郎君
●仝　町横山百十四番地　贊成員　藤原吉藏君
●仝　町八幡二十番地　通常會員　金田まん子
●仝　町馬乘九十五番地　通常會員　松本うら子
●仝　町八十八番地　通常會員　朝倉縫子
●仝　町横山百二十二番地　通常會員　小川ちか子

○役員　吉武輝枝子紹介

●四谷區右京町十三番地　特別會員　尾關菊枝子

○麴町　武富すみ子紹介

●麴町區永田町二丁目一番地　通常會員　古川喜代子

○日本橋　兼子とき子紹介

●日本橋區蛎殻町三丁目十一番地　通常會員　坂口よし子

○本鄕　平田きみ子紹介

●本鄕區湯島天神町一ノ五十　通常會員　深谷きん子

○小石川　牧野英子紹介

●丹後國加佐郡舞鶴町字田邊　通常會員　牛窪操子

○日本橋　特贊樋口藤次郎君紹介

●淺草區吉原京町一丁目　特別會員　鈴木歌子

○熊本　西島みね子紹介
●熊本市魚屋町有動裁縫女學校　通常會員　三保ゑつ子
○小石川　宮崎よし子紹介
●小石川區原町百三十三番地　通常會員　萩原ひさ子
○
●牛込區北山伏町二番地　通常會員　荒井利彌子
○麹町　武笠美以子紹介
●牛込區市谷田町三丁目十九番地　通常會員　望月新子
○本郷　和田英子紹介
●麻布區宮村町六十六番地　通常會員　大石とみの子
●小石川區白山御殿町百十番地　通常會員　丸山しげ子
○本郷　宮嶋喜代子紹介
●本郷區順天堂病院內　通常會員　齋藤民子
●仝　所　通常會員　岡本ひさ子
●仝　所　通常會員　石黒ひで子
○淺草　押田鈴子紹介
●淺草區千束町二丁目五十四番地　通常會員　廣瀨ひさし子
●淺草山ノ宿二十六番地　通常會員　初鹿野さだ子
○神田　大關ちか子紹介
●神田區表神保町七番地　通常會員　齋藤ます子

○宇都宮支會入會

○幹事　吉永こと子紹介
●宇都宮市東塙田町　通常會員　丸山はる子
●仝　市大工町　通常會員　絹川たね子
○特別贊成員　渡邊貞君紹介
●宇都宮市三條町　通常會員　神野まつ子
○船田きみ子紹介
●宇都宮市塙田町　通常會員　手塚りき子
●仝　市馬場町　通常會員　金澤かね子

○新潟支會入會

○會長　柏田須磨子紹介
●四大畑　通常會員　野口りう子
○幹事　稻津しん子紹介
●西蒲原郡卷町　通常會員　內木わか子
○幹事　梅木しつ子紹介
●白山浦　通常會員　山崎つる子
○會員　江部さだ子紹介
●上大川前　特別會員　關八重子
○會員　關八重子紹介
●上大川前　特別會員　八木ゑい子
○會員　神尾つや子紹介
●學校町　通常會員　若松よし子

○高崎　本多美佐子紹介

●高崎市龍見町百十九番地　通常會員　三宅鏗子

○高崎　星野きよ子紹介

●仝　市連雀町十番地　通常會員　石井ひさ子

○高崎　相川すか子紹介

●仝　市柳川町九十一番地　通常會員　利根川ひで子

●仝　市本町一ノ二　通常會員　櫻井わし子

○高崎　久保村てる子紹介

●仝　市通町五十四番地　通常會員　尾代いし子

●仝　市連雀町二ノ七十番地　通常會員　高橋てる子

●仝　市連雀町六十九番地　通常會員　武谷せん子

○高崎　横井昇子紹介

●仝　市檜物町南陽產婆看護婦會　特別會員　木下芳枝子

●仝　市柳川町十三番地　通常會員　鈴木清子

●仝　市田町五十五番地　通常會員　新井こう子

○高崎　粟野まる子紹介

●仝　市宮元町百九番地　通常會員　松本うた子

○高崎特別贊成員　横井忠國君紹介

●仝　市連雀町甲五十二番地　通常會員　木島はん子

●仝　上　通常會員　本山はる子

●仝　市新紺屋町一番地　贊成員　小幡氏颸君

●仝　上　通常會員　小幡德賀子

○高崎　木下芳枝子紹介

●仝　市檜物町南陽產婆看護婦會　通常會員　中澤留子

●仝　上　通常會員　大野みね子

○高崎特別贊成員　土谷全次君紹介

●仝　市田町六十六番地　通常會員　篠原みわ子

●仝　市連雀町八十六番地　通常會員　須野ふく子

●仝　市新紺屋町五番地　通常會員　信澤たき子

●仝　市納町五十六番地　通常會員　横堀よし子

●仝　市中紺屋町八番地　終身贊成員　岡本六左衞門君

○高崎　稲垣壽々子紹介

●仝　市龍見町九十四番地　通常會員　習田文子

●仝　市龍見町九十八番地　通常會員　添田ふさ子

●市　龍見町百三十番地　通常會員　髙野農子

○高崎　莊司駒子紹介

●仝　市柳川町百四十一番地　通常會員　水戸部きん子

○高崎　横井昇子紹介

●仝　市宮元町九十八番地　通常會員　名波なを子

○高崎特別贊成員　土谷全次君紹介

●仝　市歌川町八番地　通常會員　小島きく子

●仝　市連雀町七番地　通常會員　關根てる子

●仝　市柳川町百番地　贊成員　反野愼哉君
●仝　市八島町二十一番地　通常會員　井上げん子
●仝　市九蔵町百八番地　通常會員　須藤たに子
●仝　市九蔵町百七番地　通常會員　岸げん子
●仝　市住吉町二十一番地　特別會員　相川よね子
●仝　市相生町十二番地　通常會員　相川とみ子
●仝　市嘉多町四十五番地　通常會員　樋口すみ子
●仝　市柳川町百二十番地　通常會員　古屋はる子

○高崎　大山うら子紹介
●仝　市相生町十六番地　通常會員　宮崎よね子

○高崎特別贊成員　横井忠國君紹介
●仝　市龍見町百八番地　通常會員　津久居わか子
●仝　市柳川町百三十四番地　通常會員　堤とみ子

●山形支會入會者

○山形　北島元子紹介
●山形市　通常會員　平吹美奈子
●山形市　通常會員　山岸貴美子

○高崎特別贊成員　横井忠國君紹介
●高崎市本町百六十番地　通常會員　今井八千代子
●同　市八島町乙第三十二番地　通常會員　八木千代子

○高崎　馬渡なか子紹介
●高崎市赤坂町百四十六番地　通常會員　大村幸子

○高崎　大澤ふく子紹介
●高崎市赤坂町四十一番地　通常會員　柳澤はる子
●同　市宮元町二十六番地　通常會員　石倉いし子

○高崎　塚越まさ子紹介
●高崎市北通町百二十七番地　通常會員　村田とも子

○高崎　大山うら子紹介
●高崎市相生町二十番地　通常會員　宮島ひさ子
●仝　市歌川町十三番地　通常會員　阿部むら子

○高崎　齋藤れう子紹介
●高崎市宮元町二十二番地　通常會員　西山朝子

（以下次號）

＊　＊　＊　＊　＊　＊

●特別贊成員土谷至次君

氏は高崎市にありて公共事業に盡力せらるゝ茲に年あり現に高崎醫會長同市參事會及同市會議員にして大日本私立衞生會の終身會員なるか今回本會の特別贊成員たることを承諾せられ同夫人も熱心に又本會の爲め多數の會員を誘導せられたり

●會員種類變更

日本橋　普通常會員　特別會員　田村きよ子
本所　普通常會員　終身會員　山本喜代子
新潟　普通常會員　終身會員　山田能文子
高崎　普通常會員　終身會員　横井昇子
高崎　普通常會員　終身會員　土谷ひやく子
芝　普通常會員　終身會員　岸澄子
下谷　普通常會員　終身會員　藤村美代子

●改性

在臺灣　小松改　松岡雪子

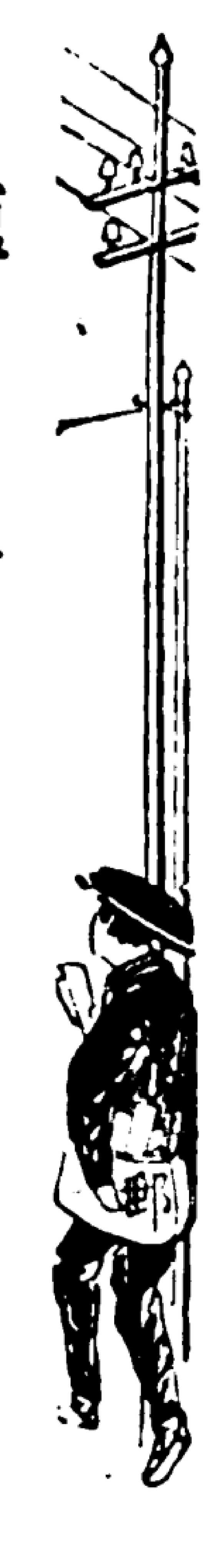
●正誤

●前號雜誌中堤藤子特別會員とせしは通常會員の誤り

●仝上會員種類變更の內淺田とみ子を新潟支會とせしは宇都宮支會の誤り

●又前號雜誌五十一頁　特賛横井氏紹介中松本泰子以下十五名は土谷ひやく子紹介の誤りに付茲に正誤す

轉居



▲會員諸氏御轉居の際は乍御手數事務所宛必す御一報相願候

●甲府市錦町四十五番地　淺場良久子
●芝區金杉町二丁目二十九番地　鈴木つる子
●臺灣苗栗廳苗栗街後藤支店方へ　松岡雪子
●淺草區壽町二十八番地へ　西垣宇野子
●北海道札幌測候所官舍四號へ　清水梅子
●本郷區湯島天神町一丁目五十番地へ　平田きみ子

◎寄贈交換雜誌（十二月分順不同）

●日本婦人　第二十九號　帝國婦人協會
●日本赤十字　第百八號　日本赤十字社發行所
●防長醫事　第八號　防長醫事社
●統計學雜誌　第百九十一號　東京統計學社
●統計集誌　第二百五十二號　東京統計協會
●をんな　第二卷第三號　大日本女學會
●體育　第百號　日本體育會
●大日本私立衛生會雜誌　第二百二十六號　大日本私立衛生會
●大日本婦人教育會雜誌　第百四十二號　大日本婦人教育會
●獵友　第三卷第三號　東京狩獵協會
●通俗衛生　第四十四號　大阪私立衛生會
●苦學界　第十二號　苦學界社

●日本橋區衛生協會雜誌		日本橋同會
●藥石新報	第四百二十號 第四百二十一號	大阪藥石新報社
●藥學雜誌	第二百四十一號	東京日本藥學會
●健康	第七號	健康雜誌社
●婦人新報	第五十九號	東京婦人新報社
●婦女新聞	第九十五號第九十六號第百一號	婦女新聞社
●學界時報	第一號	學界時報社
●婦人と子ども	第二卷第三號	フレーベル會
●國家醫學會雜誌	第八十號	東京國家醫學會
●工業雜誌	第十六卷第二百卅九號	東京工業雜誌社
●産科婦人科學雜誌	第四卷第三冊	産科婦人科學會
●産婆學雜誌	第二十七號	日本産婆學協會
●草藥新聞	第二百三十九號	草藥新聞社
●教育實驗界	第九卷第六號	東京育成會
●齒學研鑽	第三卷第一號	富安齒科治療所
●越佐教育雜誌	第百十一號	越佐教育會雜誌社
●廣島衛生醫事月報	第三十九號	廣島衛生醫事月報社
●光之庭	第二卷第二號	以文會
●東京教育雜誌	第百四十八號	東京教育雜誌發行所
●農産時報	第十一、十二號	農産時報發行所
●健康の栞	第十號	廣島健康の栞社
●山陽新報	第六九〇六號	岡山山陽新報社
●明行會叢誌	第二號	東京明行會
●愛國婦人	第二號	愛國婦人會
●大阪醫學會雜誌	第一卷九號	大阪醫學會
●實業新聞		和歌山實業新聞社
●大阪滑稽新聞		大阪同社

好學園女子部設立の趣旨

近時女子教育の隆盛に赴くに隨ひ女子の東京に遊學する者日に益々多からんとす。されば都下には間々その家庭においてこれが監督をなすの篤志者あり、また各女學校にも多くは寄宿舍の設ありてこれを收容せんことに勉むといへども、しかもその多數は身を託すべきの親戚故舊なく、或は適當なる寄寓を得るに困じ、往々にして下宿屋に寄寓するものすら鮮からず、然るに下宿屋は多くは喧騷卑猥の巷にあり今それ妙齡の女子をして此の間に投ぜしめ日夕見聞するに市井厭ふべきの事を以てせんとす、これ豈彼等の淑德を完うせしむる所以ならんや。

本園は此等の子女を集めて一の家族的寄宿舍を作り嚴肅なる指導監督の下に、其の志操を高め、其の淑德を研き、併せて家政炊事のことに習はしめ、學校以外別に女子に必要なる訓練を施さんと欲す。もし幸にして幾何かの子女を本園に會し、一家團欒の

間日夕師友と相見るを得て、相共に精苦し、相共に慰藉し以て怠るなくんば、希くば彼等の父兄をして安んじて其の子女を托するの所たらしむるを得んか。本園を設くるの趣旨洵に此の如し。世上の君子淑女幸に其の志を諒とせられんことを。

明治三十五年三月　好學園主　千田時次郎

本園の設立及び發達を賛助し、園生のため時々垂教誘掖の勞を取らんことを約せられたる諸君は左のごとし。

明治女學校長　巖本善治君
日本女子大學校長　成瀨仁藏君
松村介石君
日本女子大學校講師　三輪田眞佐子君
島田三郎君
（いろは順）

規則

一　本園は園生の薫陶々冶のために左の諸集會を開く

・講義　日曜土曜を除き每夜一時間教育、兒童心理、實踐倫理、家事衞生等に關する講話を開く

・講談會　毎月一回本園の賛成員ならびに諸名士を聘して女子に適當なる講談會を開く

・茶話會　毎月一回園生相互の親睦のため茶話會を開く

一　園主夫妻は親しく園生を指導監督しまた年長の園生をして順番に主婦の位置に立たしめ園生各自をして炊事及び家事の整理に習はしむ

一　園生は一年二回園生の學校に於ける學業品行の成績及び園内に於ける動靜につき父兄に報告するものとす

一　入園せんと欲するものは父兄及び市内に一戸を有する保證人の連署ある入園證を差出すべし

一　園生は常に學業に勵み品性を研磨し都下女學生の模範たらんことを期すべし

一　本園の費用を左の如く定め總て前納せしむるものとす　但し時價によりて變更することあるべし

監督料　金五拾錢　舍費及び食料　金六圓

細則　園内諸般の規律細目は別に細則を設けて之を規定す

東京市麴町區三番町六十八番地

好學園

警察醫長醫學士山根正次著

婦人之生活　全壹册

正價金三十錢
郵税金四錢
菊版三號活字

婦人躰育の學は教育界の天籟となりて社會に反響せり本書は實に此の天籟の吹奏者として最も有力なる山根警察醫長の著なり婦人終生の健康法は悉く記して遺す所なく今や第一版三千部は僅々四ヶ月に滿たずして已に賣切となり地方各女學校よりの注文に應ずる能はず今回更に訂正第二版を印刷に付す文章記述共に修飾を加へ總傍訓を付して菊版三號の大活字を用ひ讀者の視力に注意せる等第一版に比して更に一層の進歩を加ふ躰育の天惠に依りて幸福なる家庭健全なる子女を得んとせらるゝものは必ず本書を讀まざるべからず

警察醫長醫學士山根正次講演

改良服圖說　全一册

菊版美裝
寫眞精圖十數葉入

○正價金二十二錢　郵税金四錢

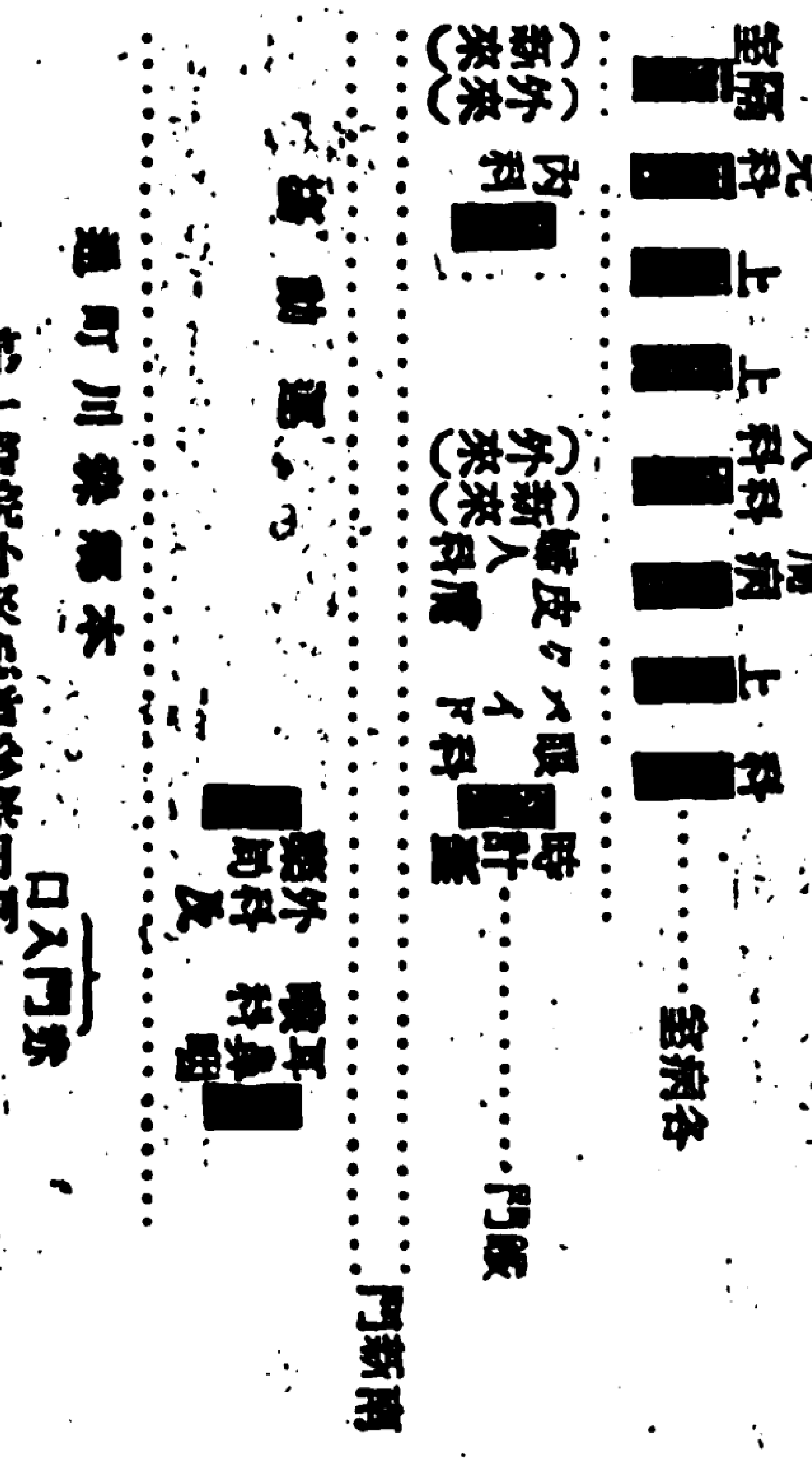
躰育と衣服は最も密接なる關係を有するとは已に學者の定論となれり本書は衣服改良の實踐家として現代に隠れなき山根醫學士が十餘年の研究に依りて作成せる自家改良服の圖を示めして其用法裁縫法等を詳記し且つ衣服の躰育に及ぼす關係より内外衣服の利害を論じ國民躰育上の問題より最も丁寧に演説せるものにて文章流麗にして何人にも讀み易く一讀して直ちに改良服の製造法を知ることを得る良書なり

大販賣所　庚寅新誌社

東京市京橋區鎗屋町十五番地

東京帝國大學醫科大學附屬醫院案內

東京醫科大學附屬醫院は本郷元富士町にあり會員の便を圖り左に構内の略圖及診察時間を掲ぐ（診察料なし藥價實費）診察を乞ふものは午前七時迄に同醫院事務所へ名刺を出すこと



第一醫院外來患者診察日割

内科（新來）初めて診察を受けに行くもの
三浦教授　水金　午前九時より
入澤教授　火土　仝
助教授　橋本　月木　仝
再來（二度目以上診察を受けに往くもの）
助手　火木土　仝

外科（新來）
ドクトル　スクリバ　水　金　午前十時より三十人
近藤教授　火木土　午前九時より二十五人

再來
助手　月水金　午前九時より

眼科（新來）
河本教授　月火水木金土　午前八時より
再來
河本教授　月火木金土
助手　仝上

産科婦人科（新來）
木下教授　火木土　午前九時より
再來
木下教授　火木土　仝上
助手

小兒科（新來）
弘田教授　月水金　午前十時より
再來
弘田教授　火木金　午前九時より
助手

皮膚病科（新來）
土肥教授　月水金　午前九時より
再來
土肥教授　月水金　仝上
助手

耳鼻咽喉科（新來）
岡田教授　月水金　午前九時方
再來
岡田教授　火木土　仝上
助手

脚氣病科
新來再來とも
助手　火木金　仝上

但大祭祝日及急病患者は此限にあらず

病室來訪時間・（午後一時より仝五時迄）

外科及事務所用　電話（本局四百四十六番）
産科婦人科小兒科　電話（本局四百四十四番）

第二醫院診察日割

第二醫院燒失後は第一醫院外科の一部に於て診療する元の如し

内科（新來）
青山教授　火水
入澤助教授　月
橋本助教授　水土
助手　金
再來
佐藤教授　火水土
助手　月水金

眼科（新來）
甲野助教授　火木土

入院料

一等　一日金參圓
二等　一日金貳圓
三等　一日金壹圓

但特別に附添看護婦を傭使するものは別に其傭使料を納めしむ

尚詳細は本誌百三十四號私費患者入院心得は本誌第百三十九號官費入院患者心得等は本誌第百四十號を一覽せらるべし

●會員募集廣告

本會ハ神經系統及精神ノ生理的及病理的講究ヲ目的トス○毎年一回四月總會ヲ開キテ演說、談話、討論等ヲ行フ○隔月一回神經學雜誌ヲ發刊シテ會員ニ配布ス○入會希望ノ方ハ姓名及現住所ヲ詳記シテ事務所ヘ申込マルベシ
○毎年三月中ニ次年度ノ會費二圓（但十月以後入會者ハ半額）ヲ前納スベシ
本會雜誌ハ醫學ノ外敎育病理學、心理學、精神物理學、人類學、社會學、動物學、獸醫學等ノ範圍ニ於テ凡テ神經及精神ニ關スル內國及海外ノ業蹟ヲ網羅シ四月一日其第一號ヲ發刊ス故ニ初號ヨリ取揃ヘントスル方ハ至急入會ヲ申込マルベシ

創立發起人　吳秀三　三浦謹之助

贊成員　四百八十名

（三月廿三日）

東京市小石川區駕籠町東京帝國大學
醫科大學精神病學敎室內

日本神經學會

私立大日本婦人衛生會茨城支會規則

第一條 開設の趣旨及目的 凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を望まざる可からず之を望まんとするには必や衛生と相俟ちて而る後ち始めて全き事を得るならん。されば吾人は現今東京に於る該本部に陳して更に茨城支會を開設し吾人が日常實行する衛生上の事項をなして益研究し益改善を圖りてその發達を互に努め力めんとするに在る而已。第二條 名稱 本會は私立大日本婦人衛生會茨城支會として之を當水戸市に置く。第三條 會員 本支會々員たることを望む婦人は何人にても入會することを得。第四條 入會手續 入會の節は氏名族籍住所等を明記し本支會事務所に申込むものとす。但し會員證は東京本部へ通知し然るのち之を交附すと雖とも徽章代は豫め前納せらるへし 第五條 會員種類 會員を分ちて特別。通常。終身の三種とす(い)終身會員は一時に金拾圓以上(ろ)特別會員は一ヶ月金二拾錢以上(は)通常會員は一ヶ月金拾錢を納むること 第六條 男子にして本支會の趣旨を贊成する者は之を贊成員とす 其の會費は本支會員に仝じ但し本支會に功勞ある者又は本支會に於て贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるへし 第七條 本支會員は本部にて毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得。第八條 退會せんとする者は其旨本支會事務所に報知すへし。死亡等は親戚知人より通知せらるへし 第九條 本支會に左の役員を置く、(い)支會長一名、副支會長一名、幹事六名、評議員十名、(ろ)書記、會計、庶務は幹事中より各二名づゝ互撰分擔す 第十條 役員は任期滿一ヶ年とし毎年五月總會に於て投票を以て之を定む。第十一條 本支會長は本會を總理し副支會長は支會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し會計、書記、庶務、各其事に當る(但し書記は都合により定員外のものに臨時依托する事あるべし)第十二條 集會 集會は例會、總會、評議員會及臨時會とす。(い)集會。八月を除く外毎月一回第三の日曜日に之を開く。(ろ)總會。五月適宜の日を以て之を開く。(は)急要の件あるときは臨時會若しくは評議員會を開きて評議する事あるへし。第十三條 毎會學識經驗ある知名の士に囑托して衛生上の講話演説又は之に關したる實驗等をも爲し本支會員に聽講せしむ。但し會員は知人家族等誘引して參會することを得へ此際出席の衣服は總て質素たるへし 第十四條 講話演說等は男子の傍聽を禁ず、但し贊成員若しくは會員の縁故ある男子は此限りに非ずと雖本支會の都合により臨時謝絶することあるへし。第十五條 毎會開會の實況等を本部へ送致するものとす。

第十六條 會計 本支會の所有金は本支會の名義を以て第百四銀行に預け置くものとす。第十七條 本支會々費の收入金は之を折半して本部へ便宜之を回送するものとす 第十八條 總會に於て會計の收支決算及成績等を報告するものとす。第十九條 會員中若しくは本會の障害となるへき所爲ある者又は會費を滯納するものある時は本支會長評議會の決議を經て除名する事あるへし 第二十條 玆に記述したる數條の他その必要と認むへき事項あらば成る可く本部の規則を適用するものとす 第二十一條 本支會規則は本支會長の意見又は會員二十名以上の贊成により總會の意見を經るに非ざれば漫に之を變換する事を得ず。

明治三十四年十月創立

事務所、水戸市上市田見小路二十五番地

茨城支會

私立大日本婦人衛生會

新潟支會規則

第一條 本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり

第二條 當支會の會員は左の六種とす

終身會員 一時限り出金貳拾圓
特別會員 毎月 金參拾錢
通常會員 仝 金貳拾錢
支會員 甲毎月 金拾錢
乙仝 金五錢

第三條 入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし

第四條 會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す

第五條 會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす

第六條 支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く
會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す
各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす

第七條 支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし

第八條 毎年一月總會を開き支會の要務を執行す

第九條 本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし

第十條 天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし
會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は贊成員となすべし

第十一條 一般慈善事業の贊助天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす

第十二條 支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし

第十三條 特に本規則に掲げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治廿九年四月創立

新潟支會

事務所新潟市旭町一番町十番戶
河上フサ子方

私立大日本婦人衛生會

山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く會長商議員は公撰し幹事は會長之を撰任す 役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回（第一日曜日）講話會を開き毎年一回（五月）總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精々質素なるを要す上着及羽織は綿布を用ひるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築西通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會

宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク 會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス 各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月壹回（第壹日曜日）講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條 入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ本支會ヲ脫會又ハ本會ヲ退會セントスル件ハ其旨務所ニ届出ツベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二ヶ月分、殊ニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又ハ知合ノ婦人ヲ誘引シ陪聽セシムベシ●第八條 服裝ハ精々質素ナルヲ要ス上着及羽織ハ綿布ヲ用フルヲ禁ズ●第九條 特ニ支會規則ニ掲ケザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市馬場町

宇都宮支會

明治卅五年四月二十五日印刷　同年四月二十五日發行
婦人衛生雜誌第百四十九號毎月一回十五日發行

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表章するため左の徽章を用ふ

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は左の實價を以て會員に頒つ



◎通常會員章
第一號　メツキ製拾五錢、送費六錢
第二號　正銀製五拾錢、送費六錢

◎終身及特別會員章
第三號　壹圓、送費九錢

御入會注意

御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるへし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らす御前納のこと

東京府下に限り毎月會費領收人を差出すへしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候也

追て支會々員は支會へ會費納めらるべきことゝす

一　會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込郵便局）宛振出あるべし又價格表記通運便、何にても差支なし

一　會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし

一　轉居せられたるときは其旨必らす本會事務所宛通知せらるべし

一　會員中若し本會の障害となるへき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せさるものは役員會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

廣告料	一行	十錢	總て前金
	一頁	參圓	

本誌定價一部廿錢　毎月一回發行

東京市牛込區矢來町三番地中丸、四
發行所　私立大日本婦人衛生會

東京牛込區矢來町三番地
編輯兼發行者　田中德三郎

東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
印刷者　戸上義章

東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
印刷所　株式會社秀英舍第一工塲

明治三十六年（第三種郵便物認可）明治[illegible]（内務省許可）